

古文書 小笠郡 潮海寺文書

同 出羽守殿御領内

同庄 油山寺

藥師院

藥師院

四十八石

高倉金兵衛殿御代官内

山名庄 赤尾山

十五石

長樂寺

長樂寺

同 金兵衛殿内

淺羽庄 篠原山

廿六石

岩松寺

岩松寺

井上主計殿御領分之内

笠原庄 佐東山

十二石

岩井寺

岩井寺

鳥井土佐殿御領分内

川村庄

廣嚴城山

十二石

潮海寺

潮海寺

以上九ヶ所川東分

寛永三年十月 日

大御臺様御弔之時・指出之寫

四 小宮山清左衛門外六名連署狀

以上

且さと申し候。仍潮海寺御やくし・の山をやし御去ゆ(采即)いん
候て。せんくより・御をやし候ところを。たゝいまをし(押込)こ

古文書 小笠郡 潮海寺文書

潮海寺藥師
ヲノ山林伐探
禁ズ

○久努村

○袋井町

○上淺羽村

○佐東村

○河城村

○寛永三年一紀
元二二八六
○鷺山恭平氏報

○折紙

七人ノ地頭
衆加判ノ制
札案文

古文書 小笠郡 潮海寺文書

と・きりとり候よし。ふよ・とてさやうにまゝ・まゝいとし候
や。・せいさつのあるもん。・七人之地頭衆より・もんをすへ
こし候・間。ところ之ものい・申およぞす。・きんりうのもの
・ふり共。きりとり候い。とうくをとり・ちうまん可申候。
・此儀そむき候い。・きつとくせ事^(曲)。可申付候間。いつき
・の百姓共ころとく可申付候。爲後日。如此状こし候。以
上。

申之

九月

- 加茂宮地兵衛^(直重)(花押)
- 跡部三郎兵衛^(重治)(花押)
- 田村庄左衛門^(直久)(花押)
- 横地 市之丞^(爲信)(花押)
- 福嶋九郎兵衛^(爲信)(花押)
- 金田惣十郎^(昌重)(花押)
- 小宮山清左衛門^(昌重)(花押)

○寛永九年申に
して徳川忠長
家臣衆なるべ
し。

城飼郡河村
潮海寺領同
村ノ内拾石
ノ事

潮海寺様まで

七人之

くみ頭衆

参る

五 徳川家光寺領寄進朱印状寫

遠江國城飼郡河村潮海寺領。同村内・拾石事。任先規寄附
之訖。全可^ニ收納。并山林竹木諸役等免^ニ除之。如^ニ有來^ニ永
不^レ可^レ有^ニ相違^ニ者也。

慶安元年八月十七日

御朱印

○慶安元年一紀
元二三〇八

六 徳川家綱寺領繼目安堵朱印状寫

古文書 小笠郡 潮海寺文書

古文書 小笠郡 潮海寺文書

遠江國城飼郡河村潮海寺領。同村之内拾石事。任慶安元年八月十七日先判之旨寄附之訖。全可收納。并山林竹木諸役等免除之。如有來永不可有相違者也。

貞享二年六月十一日
御朱印

○以下德川家寺領繼目安堵朱印狀寫七通ヲ藏ス年月日ノミヲ採録シ
本文ヲ省略ス。

享保三年七月十一日	德川吉宗寺領繼目安堵朱印狀寫
延享四年八月十一日	德川家重寺領繼目安堵朱印狀寫
寶曆十二年八月十一日	德川家治寺領繼目安堵朱印狀寫
天明八年九月十一日	德川家齊寺領繼目安堵朱印狀寫
天保十年九月十一日	德川家慶寺領繼目安堵朱印狀寫
安政二年九月十一日	德川家定寺領繼目安堵朱印狀寫
萬延元年九月十一日	德川家茂寺領繼目安堵朱印狀寫

○貞享二年一紀
元二三四五

○鈴木文書

小笠郡河城村 鈴木半六藏

德川家七ヶ條定書

(本文ノ形式内容榛原郡坂部村板倉文書ニ同ジ)

天正十七年

七月七日

神屋彌五助重勝(花押)

友田之郷

○正願寺文書

小笠郡掛川町 正願寺藏

一 松平定行家臣竹内信重手形

高四石。天方よて御所務・可被成者也。仍如件。

元和三年巳八月廿八日

竹之内久右工門(花押)

古文書 小笠郡 鈴木文書

○元和三年一紀
元二二七七
行内松平河内守定

正願寺領天
方ノ内ニテ
四石ノ事

家中屋敷付
新田水垂村
ノ内ノ田方
一反九畝
歩ヲ手作場
ニ寄進ス

古文書 小笠郡 正願寺文書

正願寺

二 井伊直武家臣岡田茂衛門外一名連署手形

先規家中屋敷付・之新田。水垂村之内ニ有レ之田方壹反九畝・
九步之所。跡々より・貴寺手作被ニ成來候由。彌以手作場ニ
進置候。年々免付之通御・納所可有レ之者也。

萬治貳年

亥十一月廿日

大澤平衛門(幸忠)

岡田茂衛門(黒印)

正願寺

○折紙

○萬治貳年一紀
元二三一九
○井伊伯耆守直
武内

北池新田檢地

北池際新田
高七石八斗
一年貢米ノ地
染明王ヲ佛供
料トシテ出ス

北池新田檢地之覺

下田七反八畝三步

分米七石八斗壹升

以上

十盛

延寶八年

申閏八月二日

正願寺

名倉傳左衛門(久善)

大澤平右衛門(幸忠)

四 大澤幸忠名倉久善連署手形

北池際新田高・七石八斗壹升地。年貢米之事。愛染明王爲ニ
佛供料ニ被ニ出置候者也。

延寶八年

申十二月廿一日

名倉傳左衛

久善(花押)

古文書 小笠郡 正願寺文書

○折紙

○延寶八年一紀
元二三四〇

古文書 小笠郡 正願寺文書

大澤平右衛門

○(黒印)
幸忠(花押)

正願寺

五 井伊直親家臣青木頼經外一名連署手形

北池際新田高七石八斗壹升地。年貢米之事。

愛染明王爲佛供料。任先判。證文之旨被免除者也。

元祿十二年五月十七日

岡嶋甚五左衛門

○(黒印)
政(花押)

青木兵右衛門

○(黒印)
頼經(花押)

○元祿十二年
紀元二三五九

○井伊兵部少輔
直親内

北池際新田貢米
地ノ年貢米
愛染明王佛
供料トシテ
先證文ニ任
七免除ス

北池際新田
高七石八斗
一升ノ所年
貢米ノ事

正願寺

六 松平忠喬家臣庄田彌右衛門外一名連署手形

北池際新田高七石八斗。壹升之所。年貢米之事。愛染明王爲佛供料。任先證文旨。被免除者也。

松平遠江守家來

八木庄兵衛 ○(黒印)
庄田彌右衛門 ○(黒印)

寶永三年

戌七月三日

正願寺

○寶永三年
元二三六六

○以下代々掛川城主家臣衆手形。本文前文ニ同文ニツキ省略。

小笠原山城守家來

森下九郎兵衛 ○(黒印)
河野四郎兵衛 ○(黒印)

正徳元年

卯六月十一日

古文書 小笠郡 正願寺文書

○正徳元年
元二三七一

小笠原山城守家來

元文四年
未七月廿日

- 市橋里右衛門 ○ (黒印)
- 天野吉右衛門 ○ (黒印)
- 坂井十右衛門 ○ (黒印)
- 市橋宇左衛門 ○ (黒印)

○元文四年一紀
元二三九九

太田攝津守家來

延享四年
卯十月

- 福嶋幸右衛門 ○ (黒印)
- 中野全左衛門 ○ (黒印)
- 川副藤右衛門 ○ (黒印)

○延享四年一紀
元二四〇七

太田備後守家來

明和元年
申七月

- 早川十郎兵衛 ○ (黒印)
- 山田新左衛門 ○ (黒印)
- 甲賀孫太夫 ○ (黒印)

○明和元年一紀
元二四二四

- 福嶋幸右衛門 ○ (黒印)

太田攝津守家來

文化二年
丑九月

- 川副作兵衛 ○ (黒印)
- 中野全左衛門 ○ (黒印)
- 渡邊友左衛門 ○ (御用出府二付無加印)

○文化二年一紀
元二四六五

- 福嶋孫左衛門 ○ (黒印)
- 武光源太左衛門 ○ (黒印)
- 若林求馬 ○ (黒印)

太田備後守家來

文化六年
巳九月

- 川副作兵衛 ○ (黒印)
- 中野全左衛門 ○ (黒印)
- 渡邊茂右衛門 ○ (黒印)
- 福嶋孫左衛門 ○ (黒印)

○文化六年一紀
元二四六九

古文書 小笠郡 正願寺文書

若林 求馬 出府二付 無加印

太田丈三郎家來 (資給)

文化七年

午十一月

川 副作兵衛 ○ (黒印)

中野 奎左衛門 ○ (黒印)

渡邊 茂右衛門 ○ (黒印)

福嶋 孫左衛門 ○ (黒印)

若林 左忠 ○ (黒印)

太田攝津守家來 (資功)

天保十二年

丑十二月

山角 才兵衛 ○ (黒印)

橋爪 熊十郎 ○ (黒印)

福嶋 平作 ○ (黒印)

古屋 治左衛門 ○ (黒印)

渡邊 茂右衛門 ○ (黒印)

○文化七年一紀
元二四七〇

○天保十二年一紀
元二五〇一

文久二年
戌八月

太田總次郎家來 (資美)

和田治郎右衛門 ○ (黒印)

中野 才右衛門 ○ (黒印)

國井 半右衛門 ○ (黒印)

河野 覺左衛門 ○ (黒印)

山田 舍人 ○ (黒印)

若林 求馬 ○ (黒印)

○眞如寺文書

小笠郡掛川町 眞如寺藏

一 松平定勝判物

(封紙ウハ書)
「眞如寺 松平隱岐守」

下西郷甚七郎手前之内ニ而。

古文書 小笠郡 眞如寺文書

下西郷甚七郎手前ノ内

○文久二年一紀
元二五二二

古文書 小笠郡 眞如寺文書

貳拾五石者満水之替進之候。
以上。

慶長拾一年^{丙午}八月廿四日
松平隱岐守 定勝(花押)

眞如寺
聚鯨様

○慶長拾一年
紀元二二六六
○眞如寺二世

二 松平定重判物

^(封紙ハ書)眞如寺 松平河内守

眞如寺領之事

合貳拾五石者。

但下西郷甚七郎
引得之内ニ而進レ之候。

此外寺中門前ニ屋數壹間。

全寺^(ノ)霧可^(レ)被^(レ)成候者也。仍如^(レ)件。

慶長十三年 松平河内守

戊申五月廿二日 定重(花押)

眞如寺

衣鉢閣下

三 安藤直次家臣矢野正通外一名連署手形

掛川城主從^三前々一寺領高貳拾五石・付申候由。^(安藤直次)帶刀^ニ爲^三申
聞^レ候へ者。尤其通[・]前々^ノ所^ニ而。相渡[・]可^レ申由被^レ申候間。
則[・]右分可^レ被^レ成^ニ御所[・]務^レ候。爲^レ其兩人[・]仕^三如^レ此墨付^ニ進上[・]
申候。仍如^(レ)件。

元和四年

安藤 小兵衛

午
正月十六日

忠次(花押)

矢野平右衛門尉

正通(花押)

古文書 小笠郡 眞如寺文書

○慶長十三年
紀元二二六八
○定重後定行

○折紙

○元和四年
紀元二二七八

古文書 小笠郡 眞如寺文書

眞如寺様

四 松平定綱寺領寄進判物

(封紙ウハ書) 眞如寺 松平越中守

令寄附眞如寺領之事。

右。任先判之遺文。下西郷之内。以除高之地。貳拾五石令獻之。畢。令可被領納者也。

元和五年十一月十一日

越中守

源定綱(花押)

呈上 聚鯨和尚

五 松平定綱寺領寄進判物

定綱眞如寺
領下西郷ノ
内ニテ二十
五石ヲ寄進
ス

○元和五年一紀
元二二七九
○當寺二世

○折紙

(封紙ウハ書) 眞如寺聚鯨和尚

松平越中守

定綱

日輪山眞如寺者。當處勝狀之禪院也。雖然因其地溢陋。以寺後之隣地。七畝。令寄附之。畢。可被廣舊制也。仍如件。

元和五年

越中守

十一月十一日

定綱(花押)

呈上 聚鯨和尚

定綱眞如寺
後ノ地
七畝十六
ヲ寄進ス

○元和五年一紀
元二二七九

○折紙

宣正眞如寺
領二十
五石ヲ寄進
ス

六 朝倉宣正家臣柴山方成外一名連署手形

遠州懸川眞如寺領。如前々高貳拾五石之處。無相違。令寄進旨。筑後守依下知如此候。以上。

古文書

小笠郡 眞如寺文書

古文書 小笠郡 眞如寺文書

寬永六年

巳ノ

九月六日

小嶋茂左工門

○(黒印)

吉次(花押)

柴山右馬允

○(黒印)

方成(花押)

元伯和尚

四〇

○寬永六年一紀
元二二八九

眞如寺領二
十五石ノ寄

七 青山幸成寺領寄進判物

眞如寺領高貳・拾五石之事。先・城主代々任付來・證文・無相
違令寄附畢。全可レ有祈納者也。

寬永拾年

癸酉十一月廿四日

青山大藏少輔

幸成(花押)

○折紙

○寬永拾年一紀
元二二九三

眞如寺領二
十五石ノ寄

八 松平忠重寺領寄進判物

遠州眞如寺領高・貳拾五石之事。先・城主代々任證文・令寄
附畢。全可レ有祈納者也。

寬永拾貳年

乙亥十二月廿四日

松平大膳亮

忠重(花押)

○折紙

○寬永拾貳年一紀
元二二九五

眞如寺領二
十五石ノ事

九 本多忠義家臣連署手形

遠州佐野郡懸河・眞如寺領高貳拾五・石之事。如先證文・無
相違可レ有祈納者也。

古文書 小笠郡 眞如寺文書

○折紙

四七

古文書 小笠郡 眞如寺文書

本多能登守内

寛永十六年

祖父江八郎左衛門

極月十五日

〆(花押)

津田九郎兵衛

○(黒印)

正治(花押)

大原儀太夫

□(黒印)

吉成(花押)

眞如寺

一〇 松平忠勝寺領寄進判物

遠州佐野郡下西郷村之内眞如寺領貳拾五石之事。先城主代

眞如寺領下
西郷村ノ内

○折紙

○寛永十六年
紀元二二九九

四八

二十五石ノ
寄附

々寄・附之證文之旨。全相違・在之間數候。彌寺内修造・佛寺
勤行等。聊不_レ可_レ在_ニ怠慢_一者也。

寛永二十一年

松平伊賀守

九月十七日

忠勝(花押)

眞如寺

○寛永二十一年
紀元二三〇四

○折紙

一一 北條氏重寺領寄進判物

(本文前文ニ同ジ、省略ニ從フ。但佛寺ト勤行トノ間ニ誦經ヲ加フ。)

慶安元年

北條出羽守

極月 日

氏重(花押)

○慶安元年
紀元二三〇八

一二 井伊直之寺領寄進判物

古文書 小笠郡 眞如寺文書

四四九

眞如寺領下
西鄉村ノ内
事二十五石ノ

古文書 小笠郡 眞如寺文書

遠乃佐野郡仁藤・村眞如寺領。同郡・下西鄉村之内ニ而。高
貳拾五石之事。當城主代々任先判之旨。彌不可有相違
者也。仍如件。

万治二己亥年
十月廿日

井伊兵部少輔
直之(花押)

○万治二年一紀
元二二二一九

眞如寺

○以下本文前文ニ同ジ。省略ニ從フ。

延寶元丑
八月廿日

井伊伯耆守
直武(花押)

○延寶元年一紀
元二二三三三

元祿十二卯
三月廿四日

井伊兵部少輔
直朝(花押)

○元祿十二年一紀
紀元二三三九九

寶永三年
戊七月三日

松平遠江守
忠喬(花押)

○寶永三年一紀
元二二二六六

正德元年
卯六月十一日

小笠原山城守
長寛(花押)

○正德元年一紀
元二二二七一

元文四年
未七月廿日

小笠原山城守
長庸(花押)

○元文四年一紀
元二二二九九

延享四年
卯十月

太田攝津守
資俊(花押)

○延享四年一紀
元二四〇七

寶曆十四年
申六月

太田備後守
資愛(花押)

○寶曆十四年
和明
元一紀元二四
二四

文化二年
丑九月

太田攝津守
資順(花押)

○文化二年一紀
元二四六五

文化六年
巳九月

太田備後守
資言(花押)

○文化六年一紀
元二四六九

文化七年
午十一月

太田丈三郎
資始(花押)

○文化七年一紀
元二四七〇

古文書 小笠郡 眞如寺文書

四二

四五〇

古文書 小笠郡 眞如寺文書

天保十二年
丑十二月

文久二年
戌八月

太田攝津守
資功(花押)

太田總次郎
資美(花押)

四三

○天保十二年一
紀元二五〇一

○文久二年一紀
元二五二二

隱岐守先祖
ノ廟所

一三 松平定靜家臣連署狀

一筆致_二啓上_一候。然者・御寺内之隱岐守先祖之・廟所有_レ之候之
付。爲_二靈供料一年々銀子・五枚充可_レ被_二相備_一候。此旨・拙者共
分可_レ得_二御意旨_一被_二申付_一候條。如此御座候。恐惶謹言。

上坂仁左衛門

興勝(花押)

明和六己丑年

十二月九日

奥平志津摩

貞弘(花押)

○明和六年一紀
元二四二九

○松平定友、天
英額大自照
院、慶長八年
卒す。

三浦正左衛門

秀譽(花押)

吉田十郎右衛門

敬張(花押)

眞如寺

猶以右銀子之儀者。大坂留守居・堤十左衛門分相達可_レ申候
間。左様御心得可_レ被_レ成候。以上。

一四 眞如寺差出控

殿様御代替_二付_一。當寺領御墨印之儀・先々之通被_二下置_一候。
様_二奉_レ願候。則從_二先・殿様一頂戴仕候御證文・之寫差_二上_一之候。
以上。

(寶曆四年)
申五月

眞如寺

古文書 小笠郡 眞如寺文書

○折紙

○寶曆十四年一
紀元二四二四

代替ニツキ
寺領黒印
下附ヲ願フ

四三

寺社御奉行所

一五 德川家光寺領寄附朱印狀寫

遠江國佐野郡下西郷懸川・眞如寺領。同國周智郡・下天方村之内九石事。任・先規・寄附之訖。全可_レ收納_二并・山林竹木諸役等免除。如_二有來_一・彌不_レ可有_二相違_一者也。

慶安元年七月十七日

御朱印

○慶安元年一紀
元二三〇八

眞如寺領周
智郡下天方
村内九石
ノ事

一六 德川綱吉寺領繼目安堵朱印狀寫

遠江國佐野郡下西郷・懸川眞如寺領。同國周智郡・下天方村之内九石事。任・慶安元年七月十七日先判之旨。寄附之畢。

全可_レ收納。并・山林竹木諸役等免除。如_二有來_一・彌不_レ可有_二相違_一者也。

貞享二年六月十一日

御朱印

○貞享二年一紀
元二三四五

一七 德川吉宗寺領繼目安堵朱印狀寫

遠江國佐野郡下西郷懸川眞如寺領。同國周知郡_(マ)下天方村之内九石事。并・山林竹木諸役等免除。依_二當家先判之例_一・彌不_レ可有_二相違_一者也。

享保三年七月十一日

御朱印

○享保三年一紀
元二三七八

○以下同文ニツキ年月日ノミヲ採録シ本文ヲ省略ス。

延享四年八月十一日

德川家重寺領繼目安堵朱印狀寫

古文書 小笠郡 眞如寺文書

古文書 小笠郡 長福寺文書

寶曆十二年八月十一日 德川家治寺領繼目安堵朱印狀寫
天明八年九月十一日 德川家齊寺領繼目安堵朱印狀寫
天保十年九月十一日 德川家慶寺領繼目安堵朱印狀寫

四六

○長福寺文書

小笠郡掛川町 眞如寺藏

○眞如寺末寺長福寺

一 伊奈忠次手形

(封紙ウハ書)
長福寺

○折紙

以上

其寺領之事。

合壹石五斗也

(黒印)

右。如三前々一被下候間。可有寺務一者也。仍如レ件。

伊備前守

忠次(花押)

○慶長六年一紀
元二二六六一

長福寺領一石五斗

龜甲村天神領二石ノ寄附

龜甲
長福寺

二 朝倉宣正家臣柴山方成外一名連署手形

○折紙

龜甲村天神社・領。并新地寺家・分共ニ高貳石之所・令三奇附一者也。(マ、)

(寛永八年未ノ)

小嶋茂左衛門

吉次(花押)

○寛永八年一紀
元二二九一
朝倉筑後守代

霜月廿五日

柴山右馬允

方成(花押)

長福寺

三 青山幸成家臣連署手形

○折紙

古文書 小笠郡 長福寺文書

四七

龜甲村天神
塔二石ノ安

古文書 小笠郡 長福寺文書

龜甲村天神領・高貳石之事。先御代之任證文。令免許候之條。不可有相違候。此旨依下知如此候。以上。

青山大藏少輔(兼成)內

鈴木兵左衛門

勝親(花押)

小出彌左衛門

能春(花押)

寬永拾年

癸酉十一月廿四日

渡邊長四郎

番(花押)

長福寺

四 松平忠重社領寄進判物

遠州龜甲村天神領・高貳石之事。先代之任證文令寄附。全可有社納者也。

龜甲村天神
附領二石ノ寄

四六

○寬永拾年一紀
元二二九三

○折紙

寬永拾貳年
乙亥十二月廿四日
長福寺

松平大膳亮
忠重(花押)

○寬永拾貳年一
紀元二二九五

○折紙

五 本多忠義家臣連署手形

遠州佐野郡龜甲村・天神領高貳石之事。如先證文無相違。可有祈納者也。

龜甲村天神
領二石

本多能登守(忠義)內

祖父江八郎左衛門

寬永拾六年
極月十五日

乙(花押)

津田九郎兵衛

正治(花押)

古文書 小笠郡 長福寺文書

四九

○寬永拾六年一
紀元二二九九

古文書 小笠郡 長福寺文書

大原儀太夫

(黒印)

吉成(花押)

長福寺

六 松平忠勝社領寄進判物

遠州佐野郡龜甲村之内天神領貳石之事。先城主代々寄附之證・文之旨。全相違在之間・敷候。彌神事社役等聊・不可在怠慢一者也。

松平伊賀守

忠勝(花押)

寛永二十一年
九月十七日

長福寺

○寛永二十一年
正保一紀元二
三〇四

龜甲村天神
領二石ノ事

○以下二通本文前文ニ同シ。省略ニ從フ。

七 北條氏重社領寄進判物

慶安元年

極月 日

北條出羽守

氏重(花押)

○慶安元年一紀
元二三〇八

八 井伊直之社領寄進判物

万治二巳亥年

十月廿日

井伊兵部少輔

直之(花押)

○万治二年一紀
元二三一九

九 井伊直武社領寄進判物

遠江國佐野郡龜甲村・天神領。同村之内高貳石之事。懸河城

古文書 小笠郡 長福寺文書

龜甲村天神
領同村ノ内

古文書 小笠郡 長福寺文書

主代々・任ニ先規ニ令レ寄ニ附之ニ訖。全・寺納不レ可有ニ相違ニ者也。

延寶二寅

井伊伯耆守

四月廿日

直武(花押)

長福寺

○延寶二年|紀
元二二三三四

○以下代々掛川城主社領寄進判物本文前文ニ同シ。省略ニ從フ。

元祿十二卯

井伊兵部少輔

三月廿四日

直朝(花押)

○元祿十二年|紀
紀元二三三五九

寶永三年

松平遠江守

戊七月三日

忠喬(花押)

○寶永三年|紀
元二三三六六

正徳元年

小笠原山城守

卯六月十一日

長寛(花押)

○正徳元年|紀
元二三三七一

元文四年

小笠原山城守

未七月廿日

長庸(花押)

○元文四年|紀
元二二九九九

明和五年

太田備後守

子六月

資愛(花押)

○(以下宛名滿福寺)

○長福寺改號

○明和五年|紀
元二四二八

文化二年

太田攝津守

丑九月

資順(花押)

○文化二年|紀
元二四六五

文化六年

太田備後守

巳九月

資言(花押)

○文化六年|紀
元二四六九

文化七年

太田丈三郎

午十一月

資始(花押)

○文化七年|紀
元二四七〇

天保十二年

太田攝津守

丑十二月

資功(花押)

○天保十二年|紀
紀元二五〇一

文久二年

太田總次郎

戌八月

資美(花押)

○文久二年|紀
元二五二二

古文書 小笠郡 長福寺文書

古文書 小笠郡 天然寺文書

○天然寺文書

小笠郡掛川町 天然寺藏

一 石河家成判物

下西郷にて五貫め日をもいとのとめて・付置候。於末代一相違有間敷者也。如件。但つ不付有

天正元年

二月廿六日

天然寺 參

石河

家成(花押)

○傳通院殿

○天正元年一紀
元二二三三
掛川城主

家成天然寺
傳通院殿
日牌ノ爲下
西郷ノ寄附
貫目ヲ寄附

二 山内一豊判物

先規御寺領拾六俵余・并御寺中屋敷共相着・申者也。

天正拾八年

極月三日

山内對馬守(一豊)(花押)

○天正拾八年一紀
元二二五〇

一豊天然寺
寺領並寄
中屋敷ヲ寄
附中ス

下西郷

天然寺

三 安藤直次家臣矢野正道安藤忠次連署手形

掛川城主從前々・寺領高貳拾五石・付申候由。(安藤直次)帶刀乙爲三申・聞候へ者。尤其通前々の所乙而相渡可申候由。被申候間。則・右之分可被成御所務候。爲其兩人仕如此・墨付進上申候。仍・如件。

元和四年

正月十六日

安藤 小兵衛

忠次(花押)

矢野平右衛門尉

正道(花押)

○折紙

○元和四年一紀
元二二七八

天然寺領二
十五石ノ安
塔

天然寺様

古文書 小笠郡 天然寺文書

定綱天然寺
領下西郷ノ
内ニテ二附
五石ヲ寄附
ス

古文書 小笠郡 天然寺文書

四 松平定綱判物

令寄附天然寺領之事。

右當寺者。建

傳通院殿之位牌。香・花無怠轉之條尤以神妙也。仍下西郷之内。廿五石之地。不違先規。可被領知之趣蓋如件。

元和五年

越中守

源定綱(花押)

呈上天然寺

○元和五年一紀
元二二七九

○折紙

四六

天然寺領西郷村ノ内四

遠州佐野郡南西郷村之内高四斗三升七合之所。貴寺被出

五 井伊直親家臣連署手形

斗三升七合ノ替地トシテ弘法寺所ノ田代ノ内ヲ以テ代

置候。寺領之内。稻荷社地分ニ引替申付。爲三代地弘法寺所持之田地之内。右之石高改貴寺に相渡申候。爲後日仍而如件。

井伊兵部少輔家來

奥山甚兵衛 (黒印)

元祿十四年辛巳三月十一日 岡嶋甚五左衛門 (黒印)

江原仁右衛門 (黒印)

天然寺

○元祿十四年一紀
元二二三六一

○折紙

徳川家持智院領一石ヲ寄附ス

○持智院文書

小笠郡原田村樺原 持智院藏

(現廢寺ニ付檀徒總代高木利作藏)

一 伊奈忠次手形

其寺領分之事。

合壹石也 (黒印)

古文書 小笠郡 持智院文書

四七

古文書 小笠郡 持智院文書

右如三前々被下候間。可有寺務之者也。仍如件。

(慶長六年)
丑

二月十四日

伊奈備前守

忠次(花押)

とちをら

持知院

四六

○慶長六年一紀
元二二六一

伊奈忠次ノ
墨付寫ヲ差
出ス

二 持知院差出控

覺

一 壹石 遠江國佐野郡枋原村持知院領。

右寺領壹石。伊奈備前守様御墨付之而。同國周智郡下天方村之而寺務仕來り候。御墨付之寫則指上ケ申候。以上。

元祿十三年

遠江國幡鎌村

寂福寺末寺

持知院

○元祿十三年一
紀元二三六〇

御奉行所

龍傳

三 持知院差出控

枋原村持知院領寺號之儀。先日横砂御役人中ニ申上候所ニ。重而横砂御尋之趣御詮儀被成候。持知院領壹石伊奈備前守様御墨付を以。周知郡下天方村之而寺務仕來候。寺號之儀。正保之御帳ニハ枋原村之内ニハ此慈持院と文字有之。下天方村之内ニハ伊奈備前守様ノ宛此持知院と有之候。前々カ此持知院ノ文字書來。今以其通ニ御座候。右之通先頃横砂之而書付差上申候通り相違之義無御座候。依之一札差出申候。以上。

持知院領并
寺號ノ事
ヲ差出ス

古文書 小笠郡 持智院文書

四六

古文書 小笠郡 阿彌陀堂文書

元祿十三辰年八月

栃原村
持知院 判

懸川 岡田茂右衛門殿
岡嶋甚五左衛門殿
山口友左衛門殿

四〇
○元祿十三年一紀
元二二六〇

○桑地 阿彌陀堂文書

小笠郡原田村桑地 阿彌陀堂藏

阿彌陀堂棟札

元和六年庚申三月拾九日大工藤原朝臣□□清三郎
勢至菩薩

飛

奉諸阿彌陀佛

觀音菩薩

久和地村□□珠吞

主九郎左工門

大日本東海道遠江州佐野原谷庄□里之郷

○外左ノ棟札五枚所藏。

○元和六年一紀
元二二八〇

正徳三癸巳天九月吉日

天明二壬寅年八月彼岸之日

文政四辛巳年七月吉日

○旭増寺文書

小笠郡原田村原里字高山 旭増寺藏

一 徳川家康寺領寄附朱印狀寫

遠江國佐野郡原谷村・之内拾貳石事。任ニ先規ニ所ニ寄附ニ也。
并山林竹木・寺中門前諸役令ニ免・許ニ訖。者仏事勤行等。不レ可
レ有ニ懈怠ニ之狀如レ件。

慶長八年九月廿五日

御朱印

○前一行寫し落
したるべし。

○慶長八年一紀
元二二六三

家康佐野郡
原谷村ノ内
ニテ十二石
ヲ寄附ス

古文書 小笠郡 旭増寺文書

四一

秀忠旭増寺
寺領十二石
ヲ安堵ス

二 德川秀忠寺領繼目安堵朱印狀寫

寺領遠江國佐野郡原谷村之内拾貳石事。任去慶長八年・九月廿五日先判之旨。永不_レ可有_二相違_一之狀如_レ件。

元和三年三月十七日(御朱印)

旭増寺

○元和三年一紀
元二二七七

家光旭増寺
寺領ヲ安堵ス

三 德川家光寺領繼目安堵朱印狀寫

當寺領遠江國佐野郡・原谷村之内拾貳石事。任慶長八年九月廿五日元和三年三月・十七日兩先判之旨。永不_レ可有_二相違_一者也。

寬永十三年十一月九日(御朱印)

○寬永十三年一紀
紀元二二九六

旭増寺

四 德川家綱寺領繼目安堵朱印狀寫

遠江國佐野郡原谷村之内・拾貳石事。任慶長八年九月・廿五日元和三年三月十七日寬永・十三年十一月九日先判之旨。旭増寺・全收納。永不_レ可有_二相違_一者也。

寬文五年七月十一日

○寬文五年一紀
元二二二五

(御朱印)

○以下繼目安堵朱印狀寫八通年月日ノミヲ採録シ本文ヲ省略ス。

貞享二年六月十一日 德川綱吉寺領繼目安堵朱印狀寫

享保三年七月十一日 德川吉宗寺領繼目安堵朱印狀寫

延享四年八月十一日 德川家重寺領繼目安堵朱印狀寫

寶曆十二年八月十一日 德川家治寺領繼目安堵朱印狀寫

家綱旭増寺
寺領ヲ安堵ス

古文書 小笠郡 龍尾神社文書

天明八年九月十一日 德川家齊寺領繼目安堵朱印狀寫
天保十年九月十一日 德川家慶寺領繼目安堵朱印狀寫
安政二年九月十一日 德川家定寺領繼目安堵朱印狀寫
萬延元年九月十一日 德川家茂寺領繼目安堵朱印狀寫

○龍尾神社文書

小笠郡西鄉村下西郷 龍尾三郎藏

一 德川家光社領寄附朱印狀寫

家光下西郷
村牛頭天
方周智郡
方村ノ内
附テ石ヲ寄

遠江國佐野郡下西郷村牛頭・天王領。同國周智郡天方村之内
・拾石事。任_レ先規_ニ寄_ニ附_ニ之_ニ畢。全可_ニ收納。并社中山林竹木
諸役等免許。如有來_レ永不_レ可_レ。有_ニ相違_ニ者也。

慶安二年八月十七日

御朱印

○朱印狀本書靜岡市久能東照宮に所藏する。郡末參照。

○慶安二年一紀元二二〇九

北天王村
家ノ諸役免
許

二 奥平長兵衛外二名連署手形寫
北天王村神家之内。竹木山役其外諸役御免許也。仍執達如
レ件。

元和元年^{卯ノ}三月七日

水野甚左工門(花押)

竹内久右工門(花押)

奥平長兵衛

政志(花押)

天王
神主

三 青山幸成社領寄進判物

懸川天王領高・五石之事。令_ニ奇_ニ附_ニ畢。全可_レ有_ニ社_ニ納。上
様御祈念・可_レ抽_ニ丹誠_ニ者也。

古文書 小笠郡 龍尾神社文書

幸成懸川
王ニ社領
石ヲ寄附
ス

○松平河内守定行家臣
○元和元年一紀
元二二七五

○折紙

古文書 小笠郡 龍尾神社文書

寬永拾年

癸酉十一月廿四日

青山大藏少輔

幸成(花押)

天王神主

四三

○寬永拾年一紀
元二二九三

忠重懸川
天王領五石
社領五石
附寄

四 松平忠重社領寄進判物

懸川天王領高・五石之事。如_二・前判_一令_二寄附_一畢。全可_レ有_二社納_一候。彌・上様御祈念可_レ抽_二丹誠_一者也。

松平大膳亮

忠重(花押)

寬永拾貳年

乙亥十二月廿四日

天王神主

○折紙

○寬永拾貳年一
紀元二二九五

五 本多忠義家臣連署手形

下西鄉村天
王領五石ノ
事

遠州佐野郡下・西鄉村天王領。高五・石之事。如_二先證文_一・無_二相違_一可_レ有_二祈納_一者也。

本田能登守内

祖父江八郎左衛門

寬永十六年

極月十五日

〔黑印〕

之(花押)

○寬永十六年一
紀元二二九九

津田九郎兵衛

正治(花押)

大原儀太夫

〔黑印〕

吉成(花押)

天王神主

六 松平忠勝社領寄進判物

古文書 小笠郡 龍尾神社文書

四七

○折紙

下西郷村天
王領五石ノ

古文書 小笠郡 龍尾神社文書

遠州佐野郡下西郷村之内天王領五石之事。先城主代々寄附之。證文之旨。全相違在之。間敷候。彌神事社役等。聊不可在怠慢者也。

松平伊賀守

忠勝(花押)

寛永二十一年

九月十七日

天王神主 左兵衛

○寛永二十一年
一紀元二三〇
四

四六

下西郷村天
王領五石ノ
事

七 北條氏重社領寄進判物

遠州佐野郡下西郷村之内天王領五石之事。依先城主代々之證文寄附之。全相違有之間布候。彌神事社役等。聊不可有怠慢者也。

北條出羽守

○折紙

慶安元年

極月 日

氏重(花押)

天王神主

左兵衛

○慶安元年一紀
元二三〇八

八 井伊直之社領寄進判物

遠州佐野郡懸川天王領。同郡下西郷村之内而高五石之事。當城主代々任先判之旨彌不可有相違者也。仍如件。

井伊兵部少輔

直之(花押)

○万治二年一紀
元二三一九

万治二己亥年

十月廿日

天王社人

佐兵衛

古文書 小笠郡 龍尾神社文書

四七

九 井伊直武社領寄進判物

遠江國佐野郡懸河・天王領。同郡下西鄉村之内・高五石之事。懸河城主・代々任先規寄附之訖。全收納不可有相違者也。

井伊伯耆守

直武(花押)

延寶二寅

四月廿日

天王

社人

○折紙

○延寶二年一紀
元二二二三四

一〇 井伊直朝社領寄進判物

遠江國佐野郡懸川・天王社領。同郡下西鄉村之内・高五石之

事。當城主代々任先規令寄附之訖。全收納不可有相違之狀・如件。

元祿十二卯

三月廿四日

井伊兵部少輔

直朝(花押)

社人

○元祿十二年一紀
紀元二三五九

○折紙

一一 松平忠喬社領寄進判物

遠江國佐野郡懸河・天王領。同郡下西鄉村之内高五石之事。任當城主代々先例寄附之畢。

松平遠江守

忠喬(花押)

寶永三年

戊七月三日

○寬永三年一紀
元二二六六

古文書 小笠原 龍尾神社文書

天王

社人

一二 小笠原長寛社領寄進判物

遠江國佐野郡懸河・天王領。同郡下西鄉村・之内高五石事。任二
・當城主代々證文之旨・令レ寄ニ附之ニ畢。

小笠原山城守

正徳元年
卯

六月十一日

天王社人

龍尾伊織

○折紙

○正徳元年一紀
元二三七二

懸川天王領
五石

古文書 小笠原 龍尾神社文書

天王

社人

一二 小笠原長寛社領寄進判物

遠江國佐野郡懸河・天王領。同郡下西鄉村・之内高五石事。任二
・當城主代々證文之旨・令レ寄ニ附之ニ畢。

小笠原山城守

正徳元年
卯

六月十一日

天王社人

龍尾伊織

○折紙

○正徳元年一紀
元二三七二

一三 小笠原長庸社領寄進判物

遠江國佐野郡懸河・天王領。同郡下西鄉村・之内高五石事。任二
・當城主代々證文之旨・令レ寄ニ附之ニ畢。

小笠原山城守

元文四年
未

七月廿日

天王社人

龍尾伊織

長庸(花押)

○元文四年一紀
元二二九九

○以下掛川城主代々社領寄進判物同文ニツキ。年月日、差出人并ニ
宛名ノミヲ採録シ。本文ヲ省略ス。

太田攝津守

資俊(花押)

○延享四年一紀
元二四〇七

延享四年
卯十月

天王社人

龍尾伊織

古文書 小笠原 龍尾神社文書

古文書 小笠那 龍尾神社文書

寶曆十四年

申六月

天王社人

龍尾伊織

太田備後守

資愛(花押)

○折紙

○寶曆十四年
元和一紀元二四
二四

文化二年

丑九月

天王社人

龍尾伊織

太田攝津守

資順(花押)

○折紙

○文化二年一紀
元二四六五

文化六年

巳九月

天王社人

龍尾伊織

太田備後守

資言(花押)

○折紙

○文化六年一紀
元二四六九

文化七年

午十一月

天王社人

龍尾伊織

太田丈三郎

資始(花押)

○折紙

○文化七年一紀
元二四七〇

天保十二年

丑十二月

天王社人

龍尾伊織

太田攝津守

資功(花押)

○折紙

○天保十二年一紀
元二五〇一

文久二年

戌八月

天王社人

龍尾伊織

太田總次郎

資美(花押)

○折紙

○文久二年一紀
元二五二二

古文書 小笠那 龍尾神社文書

家光篠原村
山王權現社
ニ同村ノ内
寄テ八石ヲ
附ス

古文書 小笠郡 牛頭天王社文書

一四 德川家光社領寄附朱印狀寫

遠江國豊田郡篠原村山王權現社領。同所内八石事。任先規一
寄附之訖。全可收納。并社中山林竹木神主屋敷等。諸役
免除。如有來永不可有相違者也。

慶安二年八月十七日

○神谷 牛頭天王社文書

小笠郡西鄉村神谷 牛頭天王社藏

棟札

佐野郡西郷
野間郷牛
頭天王社

大願主妙長(花押)藤原信光

大工藤原安吉彦三良

大日本國遠忍國佐野郡西郷莊長間郷牛頭天王御造營之事以各衆力今立藏成候

筆者繼久(花押)

于時明應拾酉稔正月廿三日 大願主妙長繼積同各祇子以力成就也

○慶安二年一紀
元二三〇九
以下萬延元年
迄八通あり。

(表) 奉造立牛頭天王御造營之事所願成就皆令満足故大願主 敬白

○明應十年一紀
元二二一六

○明二 二所權現社文書

小笠郡西鄉村五明 二所權現藏

一 二所權現棟札ノ一

大願主小高郷住人重□諸願圓滿之所

一 奉修理再向走湯箱根兩權現之御寶殿 拾一日敬白

大工藤原吉定 昔天正十二甲年亥月

天正十二年一紀
元二二四四

二 二所權現棟札ノ二

(表) 一 奉修理再向走湯箱根兩權現御寶殿 敬白

(裏) 遠州佐野郡五名□社

古文書 小笠郡 二所權現社文書

古文書 小笠郡 五社神社文書

正保四年丁亥年雪月廿四日 大工藤原

○正保四年一紀
元二三〇七

○石畑五社神社文書

小笠郡西鄉村石畑 五社神社藏

一 五社神社棟札ノ一

遠州佐野群^(表)上西江^(郷)莊高萩村大工桑利兵衛吉次

一 奉造宮五社大明神棟上御札息災安全
松下助左衛門尉様

皆元和五年^(裏)三月三日神主善左衛門敬白

○元和五年一紀
元二二七九

右近(石山)忠左衛門尉 六左衛門尉 二郎右衛門尉
喜左衛門尉 藤三郎

佐野郡上西江莊高萩村

二 五社神社棟札ノ二

元和七稔

一 □轉讀大般若經六百軸

吉祥日

○元和七年一紀
元二二八一

三 五社神社棟札ノ三

遠州佐野郡上西郷莊石畑村大工桑原久左衛門尉

方願人

一 奉造宮五社大明神棟上御札息災安全所

皆寛永拾六年^(己卯)六月拾五日神主平大夫敬白

松田長左衛門尉
石山市兵衛
松井彦左衛門尉
粕屋善左衛門尉
石田忠左衛門尉
石谷喜左衛門尉
長谷與左衛門尉

○法泉寺文書

小笠郡西鄉村瀧ノ谷 法泉寺藏

○寛永十六年一紀
元二二九九

古文書 小笠郡 法泉寺文書

四九

上西郷莊石畑

家康西郷ノ
法泉寺ニ十
石ヲ寄進セ
ル旨松平定
勝ニ報ズ

古文書 小笠郡 法泉寺文書

一 伊奈忠次書狀

遠州西郷之・法泉寺ニ。從ニ上様ニ拾石之分・御付被レ成候。山・寺中門前・竹木等。無ニ相違ニ様ニ被ニ仰付可レ被レ進候。御領分之・内之御事候間。諸事・御介抱候様ニと・被レ申事ニ候條。乍レ恐啓上仕候。恐惶謹言。

伊奈備前守

六月十四日

松平隱岐守様

人々御中

二 法泉寺棟札

伊勢天照大神

○享德三年一紀
元二一四
○春屋宗能
泉寺初代

于時享德三季甲戌五月廿七日御遷宮

住持比丘宗能記

○尙表八幡大菩薩。白山妙理大權現トシ裏書同シキモノ二枚アリ。

三 法泉寺禁制

禁制

- 一 於ニ法泉寺山ニ叨竹木・剪執事。
 - 一 於ニ寺内ニ狼藉之事。
- 右條々違背之人をハ・押留候て。此地へ可レ被ニ仰届ニ者也。仍如レ件。

大八郎右衛門(花押)
道 可(花押)

戊 拾月十三日

古文書 小笠郡 法泉寺文書

法泉寺ノ禁制

四 報恩院梁木外二名連署置狀

曹溪山法泉禪寺者。春屋大和尚開山塔頭之靈地也。然而後即庵和尚御入院。自其已來到今日迄。末派流傳天豈藏之乎。雖無申迄候上及其理候。於向後從他山之是非有間敷候。賴從東昌寺茂其斷分明也。至祝至禱。爲後代一筆進之候。

于時天正拾貳年(朱印)申十月十九日

寂乘寺

永高(花押)

大慈院

慶守(花押)

報恩院

梁木(花押)

○天正拾貳年四月
○紀元二四年
○永高の上朱印
○型及圓形に
○各々一つ捺し
○あり。

法泉寺置狀

永傳老兄 付之

○觀音寺文書

小笠郡西鄉村北袋 觀音寺舊藏(現法泉寺藏)

觀音寺朱印下附願書

遠江國佐野郡上西江村碧嶽山觀音寺

一 山國師開基之地年代深遠歟。從中比曹洞宗通幻派下盛庵和尚中興之而百五拾余年罷成候事。
一 觀音者行基之作。遠江三拾三番之札所之而。從諸國札を納者數多御座候。依之昔者大分之觀音領付來候へ共。信立發向之砌。度々軍場之罷成。古證文共燒失仕。只今四石御座候事。

○法泉寺の上
○壺型圓形の
○印各々一つ捺
○しあり。

古文書 小笠郡 世樂院文書

一 西江殿御先祖之菩提所_ニ而。台徳院様・御袋様御親父富塚五郎太夫殿御位牌石・塔于_レ今在_レ之。并石谷十藏殿先祖之菩提所。依_レ之十藏殿添狀被_レ下候。
一 寺内拾町余此内山林竹木莫大_ニ御座候事。
一 觀音堂六間四面。寺作六間九間。庫裏五間・七間惣門有之事。右之通少も偽無_ニ御座候。若偽御座候者曲事可_レ被_ニ仰・付候。何様_ニも今度御朱印頂戴仕候様奉_レ仰候。

以上

慶安貳年

丑六月三日

觀音寺

順太

(黒印)

寺社御奉行所

○世樂院文書

小笠郡倉真村山崎 世樂院藏

○慶安二年一紀
元二二〇九

定重倉見村
清樂寺ノ寺
中竹木ヲ免
許ス

一 松平定重判物

倉見村之内清樂寺・寺中竹木共_ニ令_ニ免許_ニ者也。

慶長拾六年

戊

七月廿五日

定重(花押)

清樂寺

○折紙

○慶長十六年一紀
元二二七一
○松平河内守

定綱寺中並
四壁ノ竹
木ヲ安堵ス

二 松平定綱判物

寺中并四壁・之竹木。如_ニ先規_ニ可_レ有_ニ修領_ニ之狀_ニ如_レ件。

元和六年

二月十五日

定綱(花押)

倉真村

清樂寺

○折紙

○元和六年一紀
元二二八〇

古文書 小笠郡 世樂院文書

古文書 小笠郡 世樂院文書

定辰寺中以
下ヲ安堵ス

三 中野定辰手形

○本文前文ニ同ジ、省略。

元和九年

極月朔日

倉真村

清樂寺

中野七藏

定辰(花押)

四六

○折紙

○元和九年一紀
元二二八三

宣正清樂寺
領ヲ元ノ如
ク安堵ス

四 朝倉宣正家臣柴山方成書狀

清樂寺領前々ノ・通御物語之段。・委筑^(朝倉宣正)後守申聞候・處之。被
レ致ニ承引候・間。拾三石共ニ當丑ノ・物成方御所務可・被レ成
候。爲レ其如此候。・恐惶謹言。

○折紙

寛永二年

八月六日

吞鯨様

御侍者中

柴山右馬允

方成(花押)

○寛永二年一紀
元二二八五

○世樂院五世

○折紙

宣正清樂寺
ノ寺中並ニ
四壁ノ竹木
ヲ安堵ス

五 朝倉宣正家臣柴山方成小嶋吉次連署手形

寺中并四壁・之竹木。如ニ先規・可有ニ修領之旨。・筑^(朝倉宣正)後守依
下知・如レ此之狀。仍如レ件。

寛永三年

六月廿三日

小嶋茂左衛門
吉次(花押)

柴山右馬允

方成(花押)

○寛永三年一紀
元二二八六

吞鯨和尙

古文書 小笠郡 世樂院文書

四七

六 青山幸成寺領寄進判物

世樂院寺領高・拾參石之事。先城主・代々任付來之證文。無相違令奇附^(マ)畢。全可有^三所納^一者也。

青山大藏少輔

幸成(花押)

寬永十一年

申 十一月廿四日

世樂院

○折紙

○寬永十一年 | 紀元二二九四

幸成世樂院領十三石ヲ寄附ス

七 松平忠重寺領寄進判物

遠州倉真村・世樂院領高拾・三石之事。先・城主代々任付證文。令寄附^一畢。全可有^三所納^一者也。

松平大膳亮

○折紙

忠重世樂院領十三石ヲ寄附ス

寬永拾貳年

乙亥 十二月廿四日

世樂院

忠重(花押)

○寬永拾貳年 | 紀元二二九五

八 本多忠義家臣大原吉成外二名連署手形

遠州佐野郡倉真・村世樂院領高拾・三石之事。如先證・文無相違可有^三所納^一者也。

本多能登守^(忠義)內

祖父江八郎左工門

(黑印)

之(花押)

津田九郎兵衛

(黑印)

正治(花押)

○折紙

忠義世樂院領十三石ヲ安堵ス

古文書 小笠郡 世樂院文書

大原儀太夫

(黒印)

吉成(花押)

世樂院

九 松平忠勝判物

遠州佐野郡倉真村之。内世樂院領拾三石。并寺中竹木免許之事。
先城主代々寄附之證・文之旨。全相違在之間・敷候。彌寺内修造佛寺・勤行等。聊不可在怠慢者也。

寛永二十一年

九月十七日

世樂院

松平伊賀守

忠勝(花押)

○折紙

○寛永二十一年
四 | 紀元二三〇

忠勝世樂院
領十三石並
寺中竹木
免許ノ事ヲ
安堵ス

一〇 北條氏重判物

遠州佐野郡・倉真村世樂院・領拾三石。并寺中・竹木免許之事。
先城主代々寄附之證文之旨。全相違有之間・敷候。彌寺内
修・造佛事誦經勤・行等。聊不可有怠慢者也。

北條出羽守

氏重(花押)

慶安元年

極月日

世樂院

一一 井伊直之判物

遠忍佐野郡倉真村・世樂院領。同村之内ニ而・高拾三石。并寺
中竹・木免許之事。當城主代々任先・判之旨。彌不可有
相違者也。仍如件。

○折紙

○慶安元年 | 紀
元二三〇八

直之世樂院
領十三石並
寺中竹木
免許ノ事ヲ
安堵ス

氏重世樂院
領十三石並
寺中竹木
免許ノ事ヲ
安堵ス

古文書 小笠郡 世樂院文書

五〇一

万治二己亥年

十月廿日

世樂院

井伊兵部少輔

直之(花押)

○万治二年一紀
元二二三一九

一一 井伊直武判物

遠江國佐野郡倉真村・世樂院領。同村之内・拾三石。并境内竹木・免許之事。掛河城主・代々任先規寄附之訖。全寺納不_レ可有_二相違_一者也。

井伊伯耆守

直武(花押)

○延寶元年一紀
元二二三三三

延寶元丑

八月廿日

世樂院領以下ノ安堵

一三 井伊直朝判物

○本文前文ニ同シ。省略。

井伊兵部少輔

直朝(花押)

○元祿十二年一紀
紀元二三三九九

元祿十二卯

三月廿四日

一四 松平忠喬判物

遠州佐野郡倉真村之内・高拾三石。并境内竹木・免除之事。任_二懸河・城主代々證文之旨_一。附_二屬之一畢_一。

松平遠江守

忠喬(花押)

○寶永三年一紀
元二三三六六

寶永三年

戊七月三日

世樂院

世樂院領以下ノ安堵

一五 小笠原長寬判物

○本文前文ニ同シ。省略。

正徳元年

卯六月十一日

小笠原山城守

長寬(花押)

○折紙

○正徳元年一紀
元二二七
○長寬(長懸)

一六 小笠原長庸判物

○本文前文ニ同シ。省略。

元文四年

未七月廿日

小笠原山城守

長庸(花押)

○折紙

○元文四年一紀
元二二九九

一七 太田資俊判物

遠州佐野郡倉真村之内・高拾三石。并境内竹木・免除之事。任三
懸河城主・代々證文旨寄附之畢。

延享四年

卯十月

太田攝津守

資俊(花押)

○延享四年一紀
元二四〇七

世樂院

○以下本文前文ニ同シ。省略。

寶曆十四年

申六月

太田備後守

資愛(花押)

○折紙

○寶曆十四年
明和一紀元二
四二四

文化二年

丑九月

太田攝津守

資順(花押)

○折紙

○文化二年一紀
元二四六五

古文書 小笠郡 戸澤神社文書

文化六年
巳九月

太田備後守
資言(花押)

○折紙
○文化六年一紀
元二四六九

文化七年
午十一月

太田丈三郎
資始(花押)

○折紙
○文化七年一紀
元二四七一

元保十二年
丑十二月

太田攝津守
資功(花押)

○折紙
○天保十二年一紀
元二五〇一

文久二年
戌八月

太田總次郎
資美(花押)

○折紙
○文久二年一紀
元二五二二

○戸澤神社文書

小笠郡倉真村戸澤 戸澤神社藏

一 戸澤神社棟札ノ一

大日本國東海道遠江州佐野郡倉真村戸澤爰

佐野郡倉真村戸澤四天王宮

右信男等四天王宮累年破損處抽一身建立
之此功力以在家内并住處永盛所繁昌之者也
奉造修四天王宮子孫息災守護所

寛永九年壬申季仲春拾五日 本願杉村次衛門

神谷善兵衛 赤堀次大夫

甚藏

又左衛門

助右衛門

二郎助

久六

二 戸澤神社棟札ノ二

寛文七丁未ノ年造立ノ宮
元祿八亥ノ正月新造之

本願神主六郎右衛門尉同願主氏子十一人

一 奉造作天神宮 懸河御城主御武運同當所御支配之御奉行長久ノ所

古文書 小笠郡 戸澤神社文書

○寛永九年一紀
元二二九二
○赤堀一赤堀

古文書 小笠郡宮ノ嶋八幡宮文書

遠州佐野原田ノ庄
倉真村斗澤之郷氏神

遷宮行者法印空照

大工懸河仁藤町
土屋平三郎藤原家次

(裏)

金輪聖王御願圓滿所 社頭靜謐

奉祈念天滿天神秘法供氏子繁榮祈

天下安全御武運長久 村中安穩

○宮ノ嶋 八幡宮文書

小笠郡倉真村宮ノ嶋 八幡宮藏

八幡宮棟札

(表)

御地頭松平遠江守殿

遠州佐野郡原田庄倉真村之産宮者 懸河御城當主

昔時阿波大菩薩之因由也云 神主藤原朝臣

奉造營當社宇佐八幡宮阿波大菩薩遷宮所 守重彦左衛門

同村

杉山市兵衛

佐野郡原田庄倉真村宇
佐八幡宮
阿波大菩薩
遷宮所

大工

木挽作左衛門

今年寶永五年戊子歲秋十月當社
再建造營同六年己丑歲二月十五日遷宮
畢

(裏) 願主 想左衛門

○慶雲寺文書

小笠郡東山口村 慶雲寺藏

一 山内一豐書狀

以上

爲ニ御寺領一屋・敷一所并田地・貳反半令寄・進之間。全可有ニ
・寺納一候。聊不レ可有ニ異儀一候。猶・乾賀介可レ申候。・恐々謹
言。

古文書 小笠郡 慶雲寺文書

一豊慶雲寺
ニ寺領トシ
テ屋敷一
並ニ田地
ス半ヲ寄進

○寶永五年一紀
元二三六八
○寶永六年一紀
元二三六九

○折紙

古文書 小笠郡 慶雲寺文書

文祿三

卯月十日

慶雲寺

侍者御中

山内對馬守

一豐(花押)

五二〇

○文祿三年一紀
元二二五四

定勝慶雲寺
領ヲ檢地ス

二 慶雲寺領掉打

慶雲寺御寺領分

西谷田

中田壹反五畝拾四(毛)

川く不

下畠五畝卜

同所

下畠七畝卜

同分

同卜

同卜

○折紙

下田四畝拾貳卜

下畠壹畝卜

下田八畝廿卜

下畠貳畝卜

下田五畝拾卜

中田合壹反五畝拾四卜

分米壹石八斗五升六合

下田合壹反八畝拾貳卜

分米壹石八斗四升

下畠合壹反五畝拾卜

分米七斗六升六合七勺

分米合四石四斗六升貳合七勺

(裏)

御理ニ御座候間。御寺領分右之通打申候。以上。

古文書 小笠郡 慶雲寺文書

五二一

○打ノ檢地掉打

古文書 小笠郡 慶雲寺文書

慶長九年

甲辰七月廿三日

小出善左衛門尉(花押)

青山茂兵衛(花押)

鈴木角右衛門尉(花押)

慶雲寺様

參御中

五三

○松平定勝家臣

滑川新道代
替地トシ
ノ江戶新田
ノ内ニテ下
田ノ反歩ヲ
渡ス

三 行田兵大夫外一名連署手形

山口慶雲寺御寺領之内ぬめり川。新道代之罷成候間。替之地江戸新田之内にて。下田壹反歩相渡し申候。爲後日如此手形・進上申候。仍如件。

元和八年戌八月十日

鳥居忠衛門尉(黒印)

行田兵大夫(黒印)

慶雲寺様

○切紙

○元和八年一紀
元二二八二

○松平定綱家臣

忠勝慶雲寺
領ノ知行高
ノ外ナルコ
トヲ寺社奉
行ニ報ズ

四 松平忠勝判物

遠州懸川領山口村慶雲寺領高四石五斗・六升之事。私知行高之外之而御座候。爲御心得・如斯之御座候。寺家遺跡之義者。從二本寺可被申入候。以上。

(正保四年)
三月廿六日

松平伊賀守(花押)

安藤右京進殿

松平出雲守殿

○正保四年一紀
元二二三〇七

山口郷慶雲
寺ハ太源門
徒ノ内眞岩
派ナリ

五 可睡齊松頓慶雲寺朱印下附願控

遠江國佐野郡山口郷慶雲寺。太源門徒之内眞岩派之而古跡曆然之間。御朱印被下置可然地之御座候。寺領之儀者。高。

古文書 小笠郡 慶雲寺文書

五三

古文書 小笠郡 慶雲寺文書
四石五斗六升從前々被_レ致_二寺納_一候通。當地頭松平伊賀守殿^(忠勝)證文・被_レ出候條。今度 御朱印頂戴被_レ仕候様ニ奉_レ頼候。以上。

正保四_丁曆三月廿七日

可睡齊

松頓(花押)

○正保四年一紀
元二三〇七

寺社御奉行所

六 德川家光寺領寄附朱印狀寫

遠江國佐野郡伊達方村・慶雲寺領同村內七石事。任_二先規_一寄_二附_一之訖。全_レ可_二收納_一。并寺中門前・山林竹木諸役等免除。如_二有來_一永_レ不_レ可_レ有_二相違_一者也。

慶安元年七月十七日

(朱印)

○慶安元年一紀
元二三〇八

家光伊達方村慶雲寺領寄附七石ヲ

○以下德川家寺領繼目安堵朱印狀寫八通ヲ藏ス年月日ノミヲ採録シ
本文ヲ省略ス

- 貞享二年六月十一日 德川綱吉寺領繼目安堵朱印狀寫
- 享保三年七月十一日 德川吉宗寺領繼目安堵朱印狀寫
- 延享四年八月十一日 德川家重寺領繼目安堵朱印狀寫
- 寶曆十二年八月十一日 德川家治寺領繼目安堵朱印狀寫
- 天明八年九月十一日 德川家齊寺領繼目安堵朱印狀寫
- 天保十年九月十一日 德川家慶寺領繼目安堵朱印狀寫
- 安政二年九月十一日 德川家定寺領繼目安堵朱印狀寫
- 萬延元年九月十一日 德川家茂寺領繼目安堵朱印狀寫

○妙照寺文書

小笠郡河城村友田 妙照寺藏

大般若波羅蜜多經奧書

古文書 小笠郡 妙照寺文書

○折本六百卷完
存す明治元年
九月濱名郡村
榊村より買得
せるものなり

願主僧覺智
檀那沙門逆
翁

古文書 小笠郡 妙照寺文書
(卷第四百七十七)

弘安十年三月四日

府中

願主僧覺智也

令興用之檀那沙門逆翁老叟也

(卷第四百八十)

弘安十年三月四日

府中

願主僧覺智也

中尾寺西谷地藏堂

(卷第三百二十七)

貞治二年卯癸初秋二日

素的書

一校了

勸進沙門等

勸進沙門飯遠
令之勸進沙門等順叟也

(卷第五百九十五)

遠江國於村櫛庄乙君長福禪寺佛殿東面書之

遠江國村櫛
庄乙君長福
禪寺

受筆比丘正誕降辰書生年四十七歲也

應安三年辛亥正月十二日酉時

○弘安十年一紀
元一九四七

○貞治二年一紀
元二〇二三

○應安四年一紀
元二〇三一

智感

大願主沙門
靈光

(卷第二百四十五)

「應安第五壬子十月 日 化緣比丘智感」(版本)

(卷第五百十一)

遠州路村櫛庄乙君保壽山長福禪寺常住

大願主沙門靈光

應安五年壬子五月十六日 小菴菴聖斷拜書

(卷第五百廿二)

遠江國村櫛庄乙君保壽山長福禪寺常住

大願主比丘靈光

應安第五三月五日 受筆宗珀

(第四百七十一、第四百七十三、第四百七十四、第四百八十一、第四百八十二、第四百八十三、第四百八十四、第四百八十五、第四百八十六、第四百八十七、第四百八十八、第四百八十九、第四百九十五、第五百十二、第五百十三、第五百十四、第五百十五、第五百十六、第五百十八、第五百十九、第五百二十、第五百二十一、第五百二十三、第五百

古文書 小笠郡 妙照寺文書

○應安五年一紀
元二〇三一

古文書 小笠郡 妙照寺文書

百二十四、第五百二十五、第五百二十六、第五百二十七、第五百二十九、第五百三十、第五百三十一、第五百三十五、第五百三十八、第五百三十九、第五百四十

(卷四百九十一)

干峯 永德二年 戊戌 陽月中 澗日

笠子鄉東福寺

遠 江州補智郡笠子鄉東福寺常住

釋慶周書

(第四百九十三、第四百九十四)

(卷二百六十四)

令公用之檀那順鑑寺

蒲御厨中序神明宮公用

遠 江國蒲御厨中序神明宮公用爲也

宗珀

永德第三 梅句念參圖 大勸進比丘宗珀

(第二百六十一、第二百六十七)

(卷第六十七)

麒陽

于時 永德元年 甲子 中秋念參之天 江湖比丘麒陽謹書

(卷第四百二十一)

至德三年 丙寅 初秋之天 江湖比丘麒陽書

(卷第二十二)

峯 至德四年 丁卯 五月十五日 沙門承遠書

承遠

○永德二年一紀
元二〇四一

○至德元年一紀
元二〇四四

○至德三年一紀
元二〇四六
○至德四年一紀
元二〇四七

四五 大般若經卷第二百六十一與書 小笠郡河城村 妙照寺藏

思議界清淨故實際清淨何以故若一切智
智清淨若法界乃至不思議界清淨若實際
清淨元二分无別无斷故善現一切智
智清淨故若聖諦清淨若聖諦清淨故實際
清淨何以故若一切智智清淨若若聖諦清
清淨若實際清淨元二分无別无斷故
一切智智清淨故集滅道聖諦清淨集滅道
聖諦清淨故實際清淨何以故若一切智智
清淨若集滅道聖諦清淨若實際清淨元二
无二分无別无斷故
大般若波羅蜜多經卷第二百六十一
遠 江國蒲御厨中序神明宮公用
永德二年五月七日
大般若經卷第二百六十一

三州設樂長
篠勝福寺
月潭

圓潭

村櫛庄大山
寺井上坊
幸源

麒麟

叟三

(卷第六十一)

三州設樂長篠於勝福寺月潭生年六七、嘉慶二戊辰正月十三日書寫

(卷第六十二)

三州設樂長篠 於勝福寺書畢圓潭六八 嘉慶二辰年(第六十三、第六十四、第七十八)

(卷第七十四)

于時於遠州國村櫛庄大山寺井上坊書寫畢

嘉慶三年巳二月十五日 筆幸源

(卷第七十三)

于時於遠州國村櫛庄大山寺井上坊書寫畢

(第二百二十六)

(卷第二百五十五)

峇康應二年庚午季春日 江湖比丘教謹書

(第二百十六、第二百十八)

(卷第二百十七)

于時康應二年庚午下春上旬天 江湖比丘麒麟謹書

(卷第二百十九)

康應貳年三月十日般若爲ニ結緣於中津谷庵書寫了叟三

古文書 小笠郡 妙照寺文書

○嘉慶二年一紀
元二〇四八

○嘉慶三年一紀
元二〇四九

○康應二年明徳紀
元一〇五

古文書 小笠郡 妙照寺文書

(第二百二十)

(卷第二百一十一)

(卷第二百一十二)

(卷第二百一十三)

(卷第一百一十一)

(卷第一百一十二)

(卷第一百一十三)

妙因

于時應永二年乙亥九月二十二日 申尅立筆沙門妙因
同十月十三日書寫畢

(卷第一百一十二)

于時應永二年乙亥十一月二十七日書寫畢 沙門妙因
七年庚子十月廿六日願主猷海忌中六七日之日加

一校了 比丘覺淳

(卷第一百一十三)

于時應永三年丙子五月九日書寫了

一校了 沙門妙因

(卷第二百一)

令公用檀那順鑑寺也

順鑑寺

五〇

○明德元年一紀
元二〇五〇

○明德二年一紀
元二〇五一

○應永二年一紀
元二〇五五

○應永三年一紀
元二〇五六

即仲

應永第三年丙子六月念七日書寫畢 即仲

(卷第十四)

一校了

大願主 淨泰

應永歲^(五)霜月廿六日 筆者退休子

爰有能筆書此帙而自一到三則擲筆予續其筆迹要書後七卷吁嗟可謂
以狗尾似欲續豹^(口) (切斷)

(卷第十六)

一校了

于時應永五歲^(成)中冬下旬廿八日

於遠江州多米寺寂寥軒下書寫之 大願主淨泰
筆者退休子

(第十五、第十七、第十八、第十九、第二十)

(卷第四百五十四)

于時應永八年巳辛十一月三日 謹書之澄圓

(卷第九十九)

應永九年壬戌九月念八日 眞狹之

(第百)

古文書 小笠郡 妙照寺文書

五二

○應永八年一紀
元二〇六一

○應永五年一紀
元二〇五八

淨泰

多米寺寂寥軒

澄圓

古文書 小笠那 妙照寺文書

(卷第四十二)

一校畢

刑部落合村
寶珠庵
雪庭

應永十年癸未姑洗十三日雖惡筆依勸進於刑部落合村寶珠庵
如形大覺灰雪庭叟謹書 生藏 四十七

(卷第四十三)

一校了

應永十年癸未卯月三日

慈傳拜書

助筆 曇宗書

(卷第六十)

應永十年癸未三月一日 曇聰書之

令勸進檀那比丘沙門逆翁叟也

(第五、第六、第七、第二十五、第二十六、第二十七、第二十八、第三十、第四十一、
第四十五、第四十六、第四十七、第四十八、第五十五、第五十六、第五十七、第五十八、
第六十八、第七十一、第七十五)

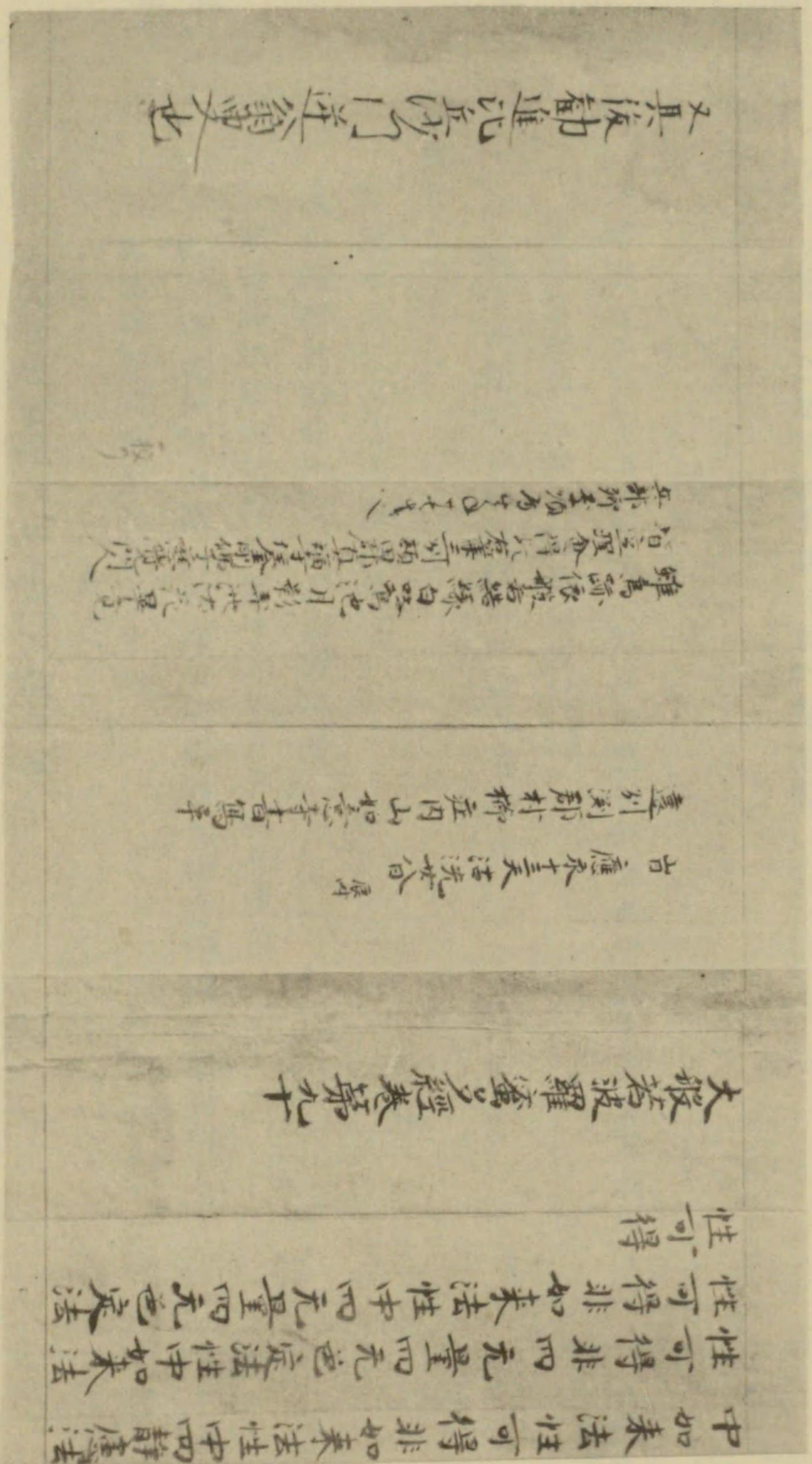
(卷第七十二)

于時應永十三年丙戌二月念七日申時刑部於寶珠庵

○應永十年一紀
元二〇六三

慈傳
曇宗
曇總

四六 大般若經卷第九十奧書 小笠那河城村 妙照寺藏



中如來法性可得非如來法性中四靜慮法
性可得非四元量四元色定法性中如來法
性可得非如來法性中四元量四元色定法
性可得

大般若波羅蜜經卷第九十

台應永十三年洗也

臺外別郡村柳庄内山如念寺書偶筆

雖高跡依難有懸珠白如洗月影其流花星月
百字取得大般若可勸進檀那身奉體靈靈因
此非所至為也

又其後勸進比丘沙門逆翁叟也

折本

雖惡筆爲末代大覺灰雪庭叟謹書生歲五十

一校了

其後之勸進檀那比丘沙門逆翁叟

(卷第七十六)

一校畢

于時應永十三年丙戌沾洗十六日於遠州刑部御厨落合村寶珠禪庵

雖惡筆如形大覺灰雪庭叟謹書生歲五十

遠江州澗郡村櫛莊內山如意寺常住也

澗郡村櫛莊
內如意寺

(卷第九十)

皆應永十三天沾洗廿八日辰時

遠州澗郡村櫛莊內山如意寺書寫畢

雖鳥跡依般若結緣白鷺池月影弄洸汰花畢竟

皆空理會得歟古筆三州額田郡眞福寺住金剛佛子慈覺門人

兵部卿慶順房生年廿七才也

一校了

又其後勸進比丘沙門逆翁叟也

(卷第九十八)

古文書 小笠郡 妙照寺文書

三州額田郡
眞福寺
兵部卿慶順房

○應永十三年
紀元二〇六六

古文書 小笠郡 妙照寺文書

右因此書寫之功熏預知終焉(惡) 羸病而逝出立入死獲(花押)
自在道法界有情同圓種智者也

應永十三祀龍華丙戌梅月初幹虔拜書之

(卷第五十三)

應永十三年卯月十九日 執筆禪琛

(卷第一百二十一)

于時應永十三禩柔兆閏茂潤林鐘吉旦 釋子景益拜手

(卷第一百三十)

上來書寫功德奉為比丘某
國土豐樂

願我此身安穩修道離諸緣障正法無難

佛日與舜日齊明慈風與堯風同扇 八宗昌盛三教彌興天下昇平兵
戈不興次冀上報四恩下資三有乃至法界羣生同圓種智刀刀相似魚
魯參差筆者錯之後覽之輩伏乞

于時應永十三祀柔兆閏茂潤林鐘晦日書之畢釋子景益

公用之且那等順鑑寺老叟 拜手

(卷第一百五十)

禪琛

景益

于時應永十三年丙戌閏六月下澣雲水子拜書之
中興且那等順老僧

(卷第一百八十二)

一校了

應永十三年丙戌潤林鐘望日於刑部寶珠庵如形慈傳謹書

(第一百八十三)

(卷第二百零六)

公用之且那 施主 岡井善左

峇應永十三丙戌年壬六月十六日 晉冉謹書

令興用之檀那順鑑寺也

(卷第一百六十)

應永十有餘三之天歲次丙戌仲夏日摩掌老昭損料昏訖

(卷第一百六十三)

右伏宓仗書寫之功惠順寂寞大德覺靈莊嚴將願同改迷邪早登清淨
覺蘭互為主伴常開廣大於門次顛某甲預知終焉無病而逝出生八死獲
六自在逮法界有情同圓種者(晉考)
應永十三年丙戌納涼中澣雲水子拜書之

(第七十七、第八十、第一百二十二、第一百二十三、第一百二十四、第一百二十五、第一

古文書 小笠郡 妙照寺文書

岡井善左
晉冉

老昭

古文書 小笠郡 妙照寺文書

百二十六、第一百二十七、第一百二十九、第一百九十三、第一百九十四、第一百九十七、第一百九十八、第一百九十九、第二百二、第二百三、第二百四、第二百五、第二百七、第二百八、第四百七十二

(卷一百七十七)

利見

應永二十七丁夷則第四日 釋利見書之

(卷第二百三十)

大山寺 相本 坊圓清

應永十四年丁十二月二日 於大山寺相本坊書之 秃筆 乞資圓清

(卷第二百三十四)

引佐郡 井伊 鄉勝樂寺 彌勒院 看慶

應永十四年丁四月十二日 遠州引佐郡井伊鄉勝樂寺

於彌勒院令書寫畢 乞資 佛子 看慶

(第一百六十七、第一百七十、第一百七十三、第一百七十五、第一百七十六、第一百七十八、第一百七十九、第二百二十七、第二百二十九、第二百三十六、第二百三十八、第二百四十三)

(卷第二百五十七)

雪庭

應永十五年戊林鐘十一日沙門雪庭叟拜書

(卷第二百五十八)

慈傳

應永十五年戊林鐘望日沙門慈傳拜書

(卷第二百六十)

右書寫之志趣者雖惡筆仍老僧勸進如形書願以此功勳某直趣无

○應永十四年 | 紀元二〇六七

○應永十五年 | 紀元二〇六八

大中 刑部近福寺

上菩提證佛道得金剛正躰建立法幢乘般若之舟普度无邊之衆同

圓種智者也於遠州刑部落合寶珠庵書寫

于時應永十五年戊林鐘念二日大覺灰慈傳拜書春秋五十二

(卷第一百三十六)

于時應永十六年己潤三月念日 受筆大中叟謹寫

於遠州刑部御厨東光山近福禪寺

(卷第一百六十八)

應永二八己卯月 日 書之

(卷第一百八十)

應永十六年己卯月中三日 書之

公用之旦那等順老叟

(卷第二百三十七)

于時應永十七年寅三月十二日 受筆 承遠書之

(卷第一百三十九)

于時應永十八年卯正月十九日 受筆 大中叟

(卷第一百十九)

應永十九壬辰沽洗中旬 書畢

古文書 小笠郡 妙照寺文書

○應永十七年 | 紀元二〇七〇
○應永十八年 | 紀元二〇七一
○應永十九年 | 紀元二〇七二

○應永十六年 | 紀元二〇六九

古文書 小笠郡 妙照寺文書

令公用之檀那鑑寺七十五歲之時

(第一百十四、第一百十八)

(卷第三百九十六)

皆應永廿年十月十三日

(卷第四百)

應永念年十月卅日 筆者桂月

(卷第一百八十五)

應永丁酉林鐘十九安寧寺寫之

(卷第一百八十七)

應永丁酉年

記之受芳

(卷第二百四十七)

永享二年_{戊戌}六月四日

執筆 幸春僧

(第一百四十九)

(卷第六百)

夫般若者佛三十箇年間於四處十六會說之也廣說共不共般若洸汰
一乘爲菩薩令轉教轉教者佛命身子須菩提令說大乘法共般若者通
教如幻即空義也不共般若者則圓中道第一義空也凡般若經意者如

○應永二十年
紀元二〇七三

○應永二十四年
六 | 紀元二〇七

○永享二年 | 紀
元二〇九〇

桂月

安寧寺

受芳

幸春

村櫛庄內如
意禪寺

元能庵主

興德禪庵

麗金首座

從色心諸法終至種智菩提談畢竟空寂混同無二萬行萬善悉從般若
一法生云々 竊惟 般若離文字而捨文字難曉其真空至埋絕言
詮必籍言詮目彰厥妙旨宣布微言專在此典矣繇茲曰聖賢得道之智
母人天除災經王萬劫難遇常啼東覓賣身一生何期玄奘西尋捨命古
猶如此今豈不然矣於是乎

索訶世界南瞻部洲大日本國東海道遠江州村櫛庄內山之如意禪寺
有大般若經自初至百至四百內四百卷寫本也一部未全備而徒送年
月久矣哉近來如意寺住持元能菴主出四百卷經目寄附崎村櫛之興
德禪庵也興德之住持麗金首座夙有鉅願欲書寫大般若經一部雖勵
志也資用浩繁無力成辦之矣感得四百卷經不勝慶喜之至或勸化諸
檀或出己資目漸々騰寫五六之二百卷也既而六百_卷全備矣於戲此
經者權輿乎元能菴主而特麗金首座續目成就一部般若經而使法王
大法缺而又全焉其於教門豈小補哉經不云乎自利利他心平等是則
名真供養佛識哉斯言矣安置於興德禪菴而永鎮法門續慧命於無窮
其法施之功最博乎哉加之麗金首座者心即菴泊興德菴之開基矧乎
又堂境僧舍之始也曰彼曰此有由矣哉仍而當處寄居之蒸民等每月

古文書

小笠郡 妙照寺文書

古文書 小笠郡 妙照寺文書

戮力出財而元正啓祚之初涓取日吉辰良就于當所之 大日堂拜此境鎮護之 八王子靈祠拜屈梵侶令轉讀此般若經目彌益欲祝皇家萬安禱相門五福增府君縣宰祿等令黎庶豐樂者也 專祈 國界安寧兵戈頓息 次冀 釋麗金袈裟堅固法臘增高道果圓成心華開發 又祈 勸誘道俗助緣貴賤等各亦 年長歲久吉祥 與瑞慶駢臻日居月諸福德與壽齡綿延現世安穩後生佛落 又祈 菴門鎮靜中外咸安食輪法輪兩俱運轉世事佛事一等圓融 大禱 此經安住不動如須彌堅固不壞如金剛永世鎮安當處敷演千佛教法歷於賢劫無窮仰慈氏無疑也

太歲辛亥永享三年十月二十八日

前瑞筆太古光清書其後

□ □ (朱印)

又其後勸進檀那比丘逆翁老叟之書

(卷第五十)

右書寫之志趣者某雖惡筆仍能菴主發願勸進如形書畢願依此功勳上酬天地覆載之恩下報父母生成之德宗親師友同證眞常信施檀那

○永享三年一紀
元二〇九一
○朱印文「太古」
「光清」

各增福壽次冀比丘某行願堅固如金剛山智辨淵深似香水海世世紹隆佛種塵建立法幢願乘般若之舟普度無邊之衆上窮銀漢下盡金輪歸吾法王同圓種智者也願以此功德普及於一切我等與衆生皆共成佛道遠州伊那佐郡刑部御厨落合村於寶珠禪庵如形書寫畢

于時應永十年癸未癸亥念九日生歲四十七沙門大覺之灰慈傳謹書

崇永正第九壬申十二月十三日

令勸進檀那比丘沙門逆翁叟

(卷四百二)

崇永正第九壬申十二月十三日

常及書

令興用檀那沙門逆翁正年七十五歲也

(第四百五、第四百九十、第五百四十九、第五百九十)

○(年月日ヲ缺ケトモ同期ト思ハル、モノ)。

(第三十九、第四十、第一百十五、第一百三十一、第一百三十五、第一百四十、第一百九、第二百四十、第二百六十八、第二百九十、第三百十、第三百三十、第三百三十三、第三百四十、第三百五十一、第三百五十二、第三百五十三、第三百五十五、第三百五十九、第三百六十一、第三百六十三、第三百八十、第四百四、第四百十、第四百十二、第四百十六、第四百二十、第四百三十、第四百四十三、第四百五十、第四百六十、第五百、第五百十、第五百七十)

古文書 小笠郡 妙照寺文書

○永正九年一紀
元二一七二

古文書 小笠那 妙照寺文書

(卷第四百四十七)

此大般若□清傳庵之內 □僧□歲之時

于時天文參_午年正月十日

(卷第二十一)

皆人迷名般若之不正意識只牛乘牛似求實般若非有外只已之我肉身也此事欲得者此句可見曰丙丁童子來悟火亦曰滴水恒河成此內般若在主當主曰清風颺々

(卷第一百三十七)

比丘義門書之

(卷第一百三十八)

義門

義門書之

中興且那順鑑寺

(卷第三)

村櫛庄海嚴寺

遠州敷知郡村櫛庄自王山海嚴寺現住欽書

茲時延寶三_{乙卯}稔五月吉辰 沙門一貞船拜

此般若應永拾年慈傳僧雖書斯置依爲年代甚遠或虫喰文字良依不

五三

○天文三年一紀
元二一九四

○延寶三年一紀
元二三三五

且那小林平
左衛門
延寶八年潤
八月六日大
風津浪起ル

見茲年雖爲惡筆之至勵志塗糊斯畢 勿論文字点劃胡亂之儀重而明白之知識改之 施主且那小林平左衛門

維時延寶八年_{庚申}年壬八月六日辰ノ一天_仁天下_一統之大風并津浪其高同天至當處者屋敷損失及一百七十餘間依其大船浮中町通小船寄八王寺扱亦村中男女宿寺町通兩三日之間宿跡忌歸將且於諸國海邊水難亡死不知其幾千萬之數□ (以下切斷)

(卷第八)

應永十_{癸未}年正月廿五日 曇聰書之

令公用之且那順鑑寺

依大破遠陽劬敷智郡村櫛莊 寶永寺現住

延寶三_{乙卯}稔五月吉祥日 義舜書之

紙寄進且那 岡井柰十良

(第九)

(卷第十)

此般若古本應永十年頃施主且那順鑑寺筆者曇聰僧雖書斯置依爲年代甚遠或虫喰或紙爛却文字良依不見□□寺住持清應海嚴寺住

古文書 小笠那 妙照寺文書

五三

○延寶三年一紀
元二三三五

村櫛庄寶永
寺
義舜
紙寄進且那
岡井柰十良

古文書 小笠郡 妙照寺文書

畢 唯□□補闕處永轉全部熾爛之日光縣智鏡於心雲四聖六凡齋而不動如山智如海矣

遠之堀江宿蘆下

元祿十二己卯冬霜月吉祥日

慈臥瑞菴拜書

(卷第三百二十九)

所祈四恩普報三有均資法界衆生同沾利益者

筆授大羯磨沙門老祖自光大隱大新道民和南書于藤谷山宿蘆悟休堂下

□□ (朱印)

于時元祿十二己卯年十月廿二日

及前本破失故清傳寺住持社多祖全喜捨淨財以黃紙投予之堂下使是書

(卷第三百五十)

及于古本破失故清傳寺住持頭陀祖全 捐捨淨財補之以黃紙

元祿十二己卯冬十月廿六日 藤谷山之羯摩大比丘

老祖自光大新道民和南書以回向萬靈

□□ (朱印)

(卷第五百七十八)

五六

○元祿十二年
紀元二三五九

自光
道民

祖全

此般若應安_二年_{辛亥}林鐘峇受筆比丘正誕降辰雖書斯置依爲年代甚遠或虫喰文字自依不見茲年雖爲惡筆之至勵志塗糊斯畢勿論文字点劃胡亂之儀重而明白之知識改之遠州敷智郡村櫛村西圓山清傳現住沙門安峯祖全

茲時元祿十二己卯年七月初十日

謹書

紙且爲現當二世村櫛村住人小林平左衛門入斯者也

(第三百七十三、第四百一)

(卷第四百三十六)

前後題目一字一禮

夢幻道本庵主俗名仲西文藏行年二十歲冬爲佛果菩提筆者紙寄進

施主 共 二 天柱謹白

遠州敷智郡村櫛村 西圓山清傳寺現住

茲時享保十六_{辛亥}年正月吉辰 沙門天柱書寫之

(卷第四百三十七)

遠州敷智郡村櫛村西圓山清傳寺現住

茲時享保十六_{辛亥}年二月吉辰

沙門天柱九拜

古文書 小笠郡 妙照寺文書

五七

○享保十六年
紀元二三九一

仲西文藏
天柱

古文書 小笠郡 妙照寺文書

前後題目一字一禮

此般若古本年代不知殊鼠喰文字自依不見茲年雖惡筆師恩爲報發
志願雖書寫之勿論文字点劃胡亂之儀重而明白之知識改之
當時七住一峯木契和尚品位

爲菩提 筆者紙寄進施主 天柱謹白

(卷第二十三)

爲 悟峯道參庵主 心岩淨本 亡靈也
證安貞印大姉 天室了然

皆延享四龍旅丁卯夏四月上旬幻夏於南江禪窟當鄉之產沙門智觀謹拜書了

(卷三百九十一)

遠州淺羽庄柴村別而百卷之檀那 沙彌道覺

(卷第三百九十八)

遠州淺羽庄柴村檀那別二百卷請取而書供養者也仍爲現世安穩後生
善處乃至法界平等利益故 筆者聽松寺主人

釋氏 建照(花押)

(卷第五十二)

○延享四年一紀
元二四〇七

五八

智觀

淺羽庄柴村
檀那沙彌道
覺

建照

浮雲子

書寫浮雲子

(卷第一百八十一)

一校了

(卷第二百七十)

桂林沙門謹書

(卷第四百七) (卷第四百十七) (卷第四百九十九) 各一校了

○(每卷々首ニ書カレタル購入金寄進者名入ノ一例)

慶應四辰年

三卷之内

爲玄水竜潜庵主

九月十一日

吉澤邑

中野彦八

○曾我村宇佐八幡宮德川家朱印狀

静岡市久能 別格官幣社東照宮藏

一 德川家光社領寄附朱印狀

古文書 小笠郡 曾我村宇佐八幡宮德川家朱印狀

○妙照寺廿四世

○慶應四年一紀
元二五二八
○當時の村民全
部に係る。

五九

家光北原川
村宇佐八幡
宮ニ同村ノ
内ニテ五石
ヲ寄附ス

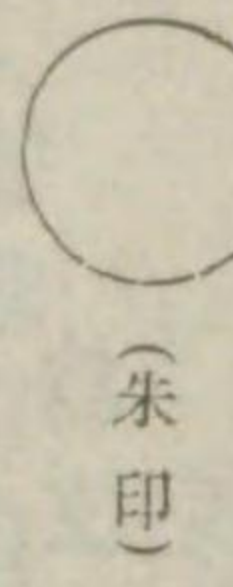
古文書 小笠郡 會我村宇佐八幡宮德川家朱印狀

(折封ウハ書)
「遠江北原川村

八幡宮領」

遠江國山名郡北原川村宇佐・八幡宮領。同村之内五石事。任
・先規寄附之訖。全可收納之。社中山林竹木并神主屋敷・
諸役等免許。如有來永不可有相違者也。

慶安二年八月十一日



(朱印)

○慶安二年一紀
元二三〇九
朱印文「家光」

網吉宇佐八
幡宮領ヲ安
堵ス

二 德川綱吉社領繼目安堵朱印狀

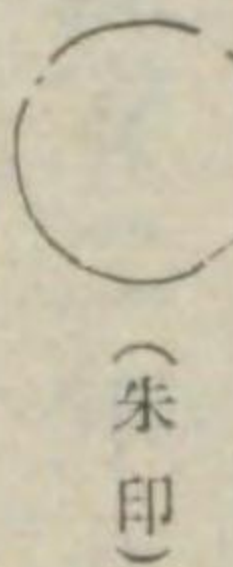
(折封ウハ書)
「遠江國山名郡北原川村

宇佐八幡宮領」

遠江國山名郡北原川村・宇佐八幡宮領。同村之内五石事。任
慶安二年八月十七日先判之旨。寄附之訖。全可收納。社

中山林・竹木并神主屋敷諸役等・免許。如有來永不可有相
違者也。

貞享二年六月十一日



(朱印)

○貞享二年一紀
元二三四五
朱印文「綱吉」

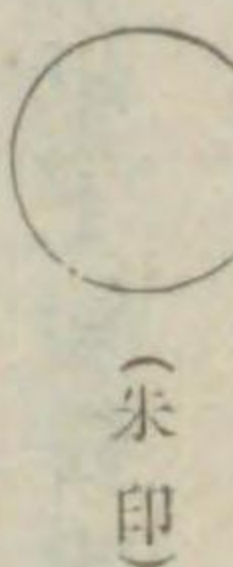
三 德川吉宗社領繼目安堵朱印狀

(折封ウハ書)
「遠江國山名郡北原川村

宇佐八幡宮領」

遠江國山名郡北原川村宇佐八幡宮領。同村之内五石事。并
社中山林竹木・神主屋敷諸役等免許。依當家先判之例。永
不可有相違者也。

享保三年七月十一日



(朱印)

○享保三年一紀
元二三七八
朱印文「吉宗」

古文書 小笠郡 會我村宇佐八幡宮德川家朱印狀

吉宗宇佐八
幡宮領ヲ安
堵ス

古文書 小笠郡 曾我村熊野權現社德川家朱印狀

○以下繼目安堵朱印狀六通同文ニツキ年月日ノミヲ採録シ本文ヲ省略ス

- 延享四年八月十一日 德川家重社領繼目安堵朱印狀寫
- 寶曆十二年八月十一日 德川家治社領繼目安堵朱印狀寫
- 天明八年九月十一日 德川家齊社領繼目安堵朱印狀寫
- 天保十年九月十一日 德川家慶社領繼目安堵朱印狀寫
- 安政二年九月十一日 德川家定社領繼目安堵朱印狀寫
- 萬延元年九月十一日 德川家茂社領繼目安堵朱印狀寫

○曾我村熊野權現社德川家朱印狀

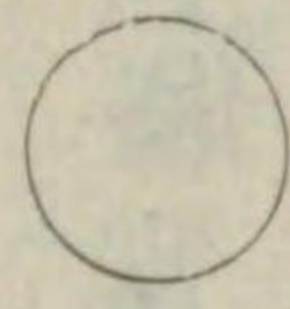
静岡市久能 別格官幣社東照宮藏

一 德川家光社領寄附朱印狀

(折封ウハ書)
遠州平野村
熊野權現領

遠江國佐野郡平野村熊野・權現領。同村之内拾五石事。任先
・規寄附之畢。全可收納。并社中山林竹木諸役等免許。
如_二有來_一永不可_レ有_二相違_一者也。

慶安二年八月十七日

 (朱印)

○慶安二年一紀
元二三〇九
朱印文「家光」

二 德川綱吉社領繼目安堵朱印狀

(折封ウハ書)
遠江國佐野郡平野村
熊野權現領

遠江國佐野郡平野村熊野・權現領。同村之内拾五石事。任先
慶安二年八月十七日先判之旨。寄附之訖。全可收納。并社
中・山林竹木諸役等免許。如_二有來_一永不可_レ有_二相違_一者也。

貞享二年六月十一日

古文書 小笠郡 曾我村熊野權現社德川家朱印狀

五四

○貞享二年一紀
元二三四五

綱吉熊野權
現領ヲ安堵

古文書 小笠郡 會我村熊野權現社德川家朱印狀



○朱印文「綱吉」

五四

三 德川吉宗社領繼目安堵朱印狀

(折封ウハ卷)
「遠江國佐野郡平野村
熊野權現領」

遠江國佐野郡平野村熊野權現領・同村之内拾五石事。并社中山林竹木・諸役等免許。依當家先判之例。永不_レ可有_二相違_一者也。

享保三年七月十一日



○享保三年一紀
元二三七八
朱印文「吉宗」

○以下繼目安堵朱印狀六通同文。年月日及差出人前掲字佐八幡宮ノ分ニ同斷。今省略ニ從フ。

吉宗熊野權
現領ヲ安堵
ス

家光富部村
八王子社ニ
寄附ス

○櫻木村八王子社德川家朱印狀

靜岡市久能 別格官幣社東照宮藏

一 德川家光社領寄附朱印狀

(折封ウハ卷)
「遠州富部村」

八王子社領

遠江國佐野郡富部村・八王子社領。同所之内三石・事。任_二先規_一寄_二附_一之_二訖_一。全可_二收納_一。并社中山林・竹木諸役等免除。如_二有_一來_二永不_レ可有_二相違_一者也。

慶安二年十月十七日



○慶安二年一紀
元二三〇九
朱印文「家光」

二 德川綱吉社領繼目安堵朱印狀

古文書 小笠郡 櫻木村八王子社德川家朱印狀

五五

綱吉八王子
社領ヲ安堵
ス

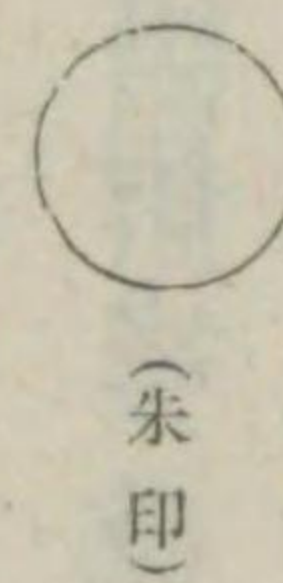
古文書 小笠郡 櫻木村八王子社德川家朱印狀

(折封ウハ書)
「遠江國佐野郡富部村」

八王子社領

遠江國佐野郡富部村・八王子社領。同村之内三石事。・任慶安二年十月十七日先判之旨。寄附之訖。全可收納。并社中山林竹木諸役等免除。如有來。永不可有相違者也。

貞享二年六月十一日



(朱印)

○貞享二年一紀
元二三四五
朱印文「綱吉」

吉宗八王子
寺領ヲ安堵
ス

三 德川吉宗社領繼目安堵朱印狀

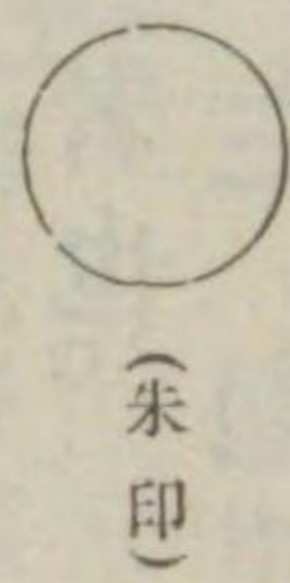
(折封ウハ書)
「遠江國佐野郡富部村」

八王子社領

遠江國佐野郡富部村八王子社領。同村之内三石事。并社中山林・竹木諸役等免除。依當家先判之例。永不可有相違者也。

也。

享保三年七月十一日



(朱印)

○以下繼目安堵朱印狀六通同文。年月日及差出人前掲字佐八幡宮ノ分ニ同斷。今省略ニ從フ。

○西鄉村牛頭天王社德川家朱印狀

静岡市久能 別格官幣社東照宮藏

一 德川家光社領寄附朱印狀

(折封ウハ書)
「遠州下西鄉村」

牛頭天王領

遠江國佐野郡下西鄉村牛頭・天王領。同國周智郡天方村之内・拾石事。任先規寄附之畢。全可收納。并社中山林竹木・諸

古文書 小笠郡 西鄉村牛頭天王社德川家朱印狀

五四七

家光下西郷
村牛頭天王
社=周智郡
天方村ノ内

○享保三年一紀
元二三七八
朱印文「吉宗」

ニテ十石ヲ
寄附ス

古文書 小笠郡 西鄉村牛頭天王社德川家朱印狀
役等免許。如有來_レ永不_レ可_レ有_二相違_一者也。

慶安二年八月十七日

○ (朱印)

○慶安二年一紀
元二三〇九
朱印文「家光」

網吉牛頭天
王社領ヲ安
堵ス

(折封ウハ書)
「遠江國佐野郡下西鄉村

二 德川綱吉社領繼目安堵朱印狀

牛頭天王社領

遠江國佐野郡下西鄉村・牛頭天王領。同國周智郡天方村之内
拾石事。・任_二慶安二年八月十七日先判之旨_一。寄附之訖。全
可_二收納_一。并社中・山林竹木諸役等免許。如有來_レ永不_レ可_レ有_二
相違_一者也。

貞享二年六月十一日

○ (朱印)

○貞享二年一紀
元二三四五
朱印文「綱吉」

吉宗牛頭天
王社領ヲ安
堵ス

(折封ウハ書)
「遠江國佐野郡下西鄉村

三 德川吉宗社領繼目安堵朱印狀

牛頭天王社領

遠江國佐野郡下西鄉村牛頭天王・社領。周知郡天方村之内拾
石事。并・社中山林竹木諸役等免許。依_二當家先判之例_一。永不
可_レ有_二相違_一者也。

享保三年七月十一日

○ (朱印)

○享保三年一紀
元二三七八
朱印文「吉宗」

○以下繼目安堵朱印狀六通同文。年月日差出人前掲字佐八幡宮ノ分
ニ同斷。今省略ニ從フ。

古文書 小笠郡 西鄉村牛頭天王社德川家朱印狀

五九

古文書 小笠郡 土方村高天神社德川家川朱印狀

五〇

○土方村高天神社德川家朱印狀

静岡市久能 別格官幣社東照宮藏

一 德川家光社領寄附朱印狀

(折封ウハ書)
一 遠州

高天神社領

遠江國城飼郡土方村・高天神社領。同所之内・六石事。任先
規寄附之。訖。全可收納。并社中竹木・諸役等免除。如
來永不可有相違者也。

慶安元年八月十七日

(朱印)

○慶安元年一紀
元二三〇八
朱印文「家光」

家光土方村
高天神社
同所之内
六石ヲ寄
附スニ

二 德川綱吉社領繼目安堵朱印狀

(折封ウハ書)
一 遠江國城飼郡土方村

高天神社領

遠江國城飼郡土方村高天神社領。同村之内六石事。任慶安
元年八月十七日先判之旨寄附之。訖。全可收納。并社中
竹木諸役等免除之。如來永不可有相違者也。

貞享二年六月十一日

(朱印)

○貞享二年一紀
元二三四五
朱印文「綱吉」

綱吉高天神
社領ヲ安堵
ス

三 德川吉宗社領繼目安堵朱印狀

(折封ウハ書)
一 遠江國城東郡土方村

高天神社領

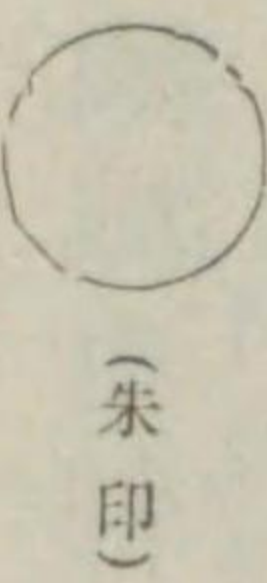
遠江國城東郡土方村高天神社領。同村之内六石事。并社中竹
木・諸役等免除。依當家先判之例。永不可有相違者也。

古文書 小笠郡 土方村高天神社德川家朱印狀

五一

吉宗高天神
社領ヲ安堵
ス

古文書 小笠郡 横須賀町 捻社權現社 德川家朱印狀
享保三年七月十一日



(朱印)

五三

○享保三年一紀
元二三七八
朱印文「吉宗」

○以下續目安堵朱印狀六通同文。年月日及差出人前掲字佐八幡宮ノ分ニ同斷、今省略ニ從フ。

○横須賀捻社權現社 德川家朱印狀

静岡市久能 別格官幣社 東照宮藏

一 德川家光社領寄附朱印狀

(折封ウハ書)
「遠州大淵村 捻社權現領」

遠江國城飼郡大淵村・捻社權現領同村內貳拾石支。任ニ先規一寄ニ附之ニ訖。全收納・永不レ可有ニ相違ニ者也。

慶安元年二月廿四日

○慶安元年一紀
元二三〇八

家光大淵村
同社權現領
同村ノ内ニ
テ二十石ヲ
寄附ス



(朱印)

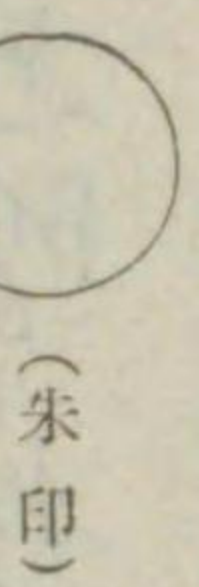
○朱印文「家光」

二 德川綱吉社領繼目安堵朱印狀

(折封ウハ書)
「遠江國城飼郡大淵村 三社權現領」

遠江國城飼郡大淵村三社權現領・同村之内貳拾石事。任ニ慶安・元年二月廿四日先判之旨。寄附之訖。全收納永不レ可有ニ相違ニ者也。

貞享二年六月十一日



(朱印)

○貞享二年一紀
元二三四五
朱印文「綱吉」

綱吉三社權
現領ヲ安堵
ス

三 德川吉宗社領繼目安堵朱印狀

古文書 小笠郡 横須賀町 捻社權現社 德川家朱印狀

五三

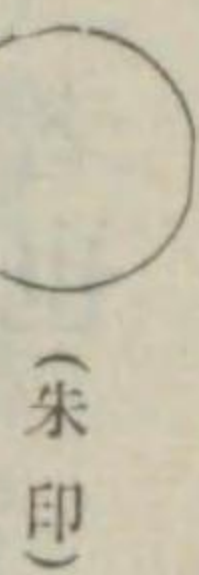
吉宗三社權
現領ヲ安堵
ス

古文書 小笠郡 横須賀町王子權現社德川家朱印狀
(折封ウハ書)
「遠江國城東郡大淵村

三社權現領

遠江國城東郡大淵村三社權現領・同村之内貳拾石事。依當家
先判之例。永不_レ可有_二相違_一者也。

享保三年七月十一日



(朱印)

○以下繼目安堵朱印狀六通同文。年月日及差出人前掲字佐八幡宮ノ
分ニ同斷。省略ニ從フ。

○横須賀町王子權現社德川家朱印狀

静岡市久能 別格官幣社東照宮藏

一 德川家光社領寄附朱印狀

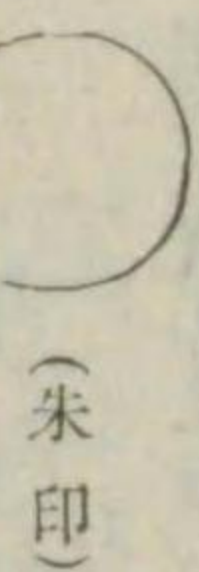
家光横須賀
王子權現社
ニ同村ノ内
ニテ五石ヲ
寄附ス

(折封ウハ書)
「遠州横須賀

王子權現社領

遠江國城飼郡横須賀・王子權現社領。同所之内・五石事。任
先規寄附之訖。全可_二收納_一。并社中竹木諸役等。免除。如
有來。永不_レ可有_二相違_一者也。

慶安元年八月十七日



(朱印)

二 德川綱吉社領繼目安堵朱印狀

(折封ウハ書)
「遠江國城飼郡横須賀
王子權現社領

遠江國城飼郡横須賀王子權現社領。同所之内五石事。任慶
安元年・八月十七日先判之旨寄附之訖。全可_二收納_一。并社

古文書 小笠郡 横須賀町王子權現社德川家朱印狀

綱吉王子權
現社領ヲ安
堵ス

○享保三年一紀
元二三七八
朱印文「吉宗」

○慶安元年一紀
元二三〇八
朱印文「家光」

古文書 小笠郡 横須賀町 王子權現社 德川家朱印狀

中竹木諸役等・免除。如_二有來_一永不可_レ有_二相違_一者也。

貞享二年六月十一日

○ (朱印)

○貞享二年一紀
元二三四五
朱印文「綱吉」

三 德川吉宗社領繼目安堵朱印狀

(折封ウハ書)
「遠江國城東郡横須賀

王子權現社領」

遠江國城東郡横須賀王子權現・社領。同所之内五石事。并社中竹木・諸役等免除。依_二當家先判之例_一。永不可_レ有_二相違_一者也。

享保三年七月十一日

○ (朱印)

○享保三年一紀
元二三七八
朱印文「吉宗」

○以下繼目安堵朱印狀六通同文。年月日及差出人前掲字佐八幡宮ノ

吉宗王子權
現社領ヲ安
堵ス

分ニ同斷。今省略ニ從フ。

○池新田村高松權現社德川家朱印狀

静岡市久能 別格官幣社東照宮藏

一 德川家光社領寄附朱印狀

(折封ウハ書)
「遠州門屋

高松權現領」

遠江國城飼郡高松權現領。同郡門屋村之内三拾石事。任_二先規_一寄_二附之_一訖。全可_二社納_一。并・社邊浦山荒野宮船諸役等・免許。如_二有來_一永不可_レ有_二相違_一者也。仍如_レ件。

慶安元年八月十七日

○ (朱印)

○慶安元年一紀
元二三〇八
朱印文「家光」

家光城飼郡
高松權現ノ内
門屋村ノ石
ヲ寄附ス

古文書 小笠郡 池新田村高松權現社 德川家朱印狀

五五七

○今縣社高松神
社

綱吉高松權
現領ヲ安堵ス

古文書 小笠郡 池新田村高松權現社德川家朱印狀

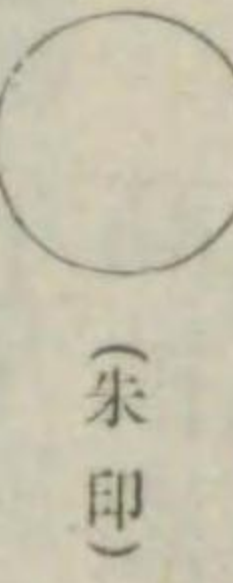
二 德川綱吉社領繼目安堵朱印狀

(折封ウハ書)
「遠江國城飼郡門屋村」

高松權現社領

遠江國城飼郡高松權現・社領同郡門屋村之内三拾石事。・任
慶安元年八月十七日先判之旨。・寄附之訖。全可收納。并社
中・諸役等免許。如_二有來_一永不可_レ有_二相違_一者也。

貞享二年六月十一日



(朱印)

○貞享二年一紀
元二三四五
○朱印文「綱吉」

吉宗社領ヲ
安堵ス

三 德川吉宗社領繼目安堵朱印狀

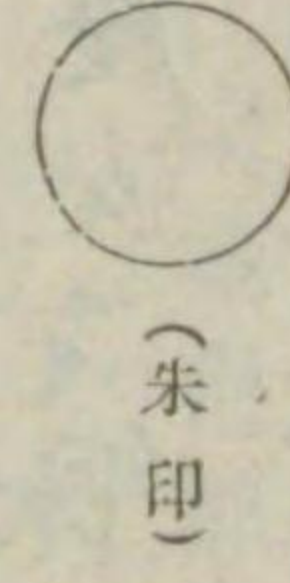
(折封ウハ書)
「遠江國城東郡門屋村」

高松權現社領

遠江國城東郡高松權現社領。・同郡門屋村之内三拾石事。并

・社中諸役等免許。依_二當家先判之例_一。・永不可_レ有_二相違_一者
也。

享保三年七月十一日



(朱印)

○以下繼目安堵朱印狀六通同文。年月日及差出人前掲字佐八幡宮ノ
分ニ同斷。今省略ニ從フ。

○享保三年一紀
元二三七八
○朱印文「吉宗」

○朝比奈村下水神社德川家朱印狀

静岡市久能 別格官幣社東照宮藏

一 德川家光社領寄附朱印狀

(折封ウハ書)
「遠州朝比奈村」

下水神領

遠江國城飼郡朝比奈村下・水神領。同所池新田村之内五石・

古文書 小笠郡 朝比奈村下水神社德川家朱印狀

家光朝比奈
村下水神社

ニ池新田村
ノ内ニテ五
石ヲ寄附ス

古文書 小笠郡 朝比奈村下水神社徳川家朱印狀

五〇

事。任ニ先規寄ニ附之ニ訖。全可ニ收納。并社中竹木諸役等免
許。如ニ有來ニ永不可有ニ相違ニ者也。

慶安二年八月十七日

○ (朱印)

○慶安二年一紀
元二三〇九
朱印文「家光」

綱吉下水神
社領ヲ安堵
ス

二 徳川綱吉繼目安堵朱印狀

(折封ウハ書)
「遠江國城飼郡朝比奈村

下水神社領」

遠江國城飼郡朝比奈村下水神領。同村池新田村之内五石事。
任ニ慶安二年八月十七日先判之旨。寄ニ附之ニ訖。全可ニ收納。
并社中竹木諸役等免許。如ニ有來ニ永不可有ニ相違ニ者也。

貞享二年六月十一日

○ (朱印)

○貞享二年一紀
元二三四五
朱印文「綱吉」

吉宗下水神
社領ヲ安堵
ス

三 徳川吉宗社領繼目安堵朱印狀

(折封ウハ書)
「遠江國城東郡朝比奈村

下水神社領」

遠江國城東郡朝比奈村下水神領。同村池新田村之内五石事。
并社中竹木諸役等免許。依ニ當家先判之例。永不可有ニ相
違ニ者也。

享保三年七月十一日

○ (朱印)

○享保三年一紀
元二三七八
朱印文「吉宗」

○以下繼目安堵朱印狀六通同文。年月日及差出人前掲字佐八幡宮ノ
分ニ同斷。今省略ニ從フ。

古文書 小笠郡 朝比奈村下水神社徳川家朱印狀

五一

古文書 小笠郡 比木村賀茂明神社德川家朱印狀

○比木村賀茂明神社德川家朱印狀

静岡市久能 別格官幣社東照宮藏

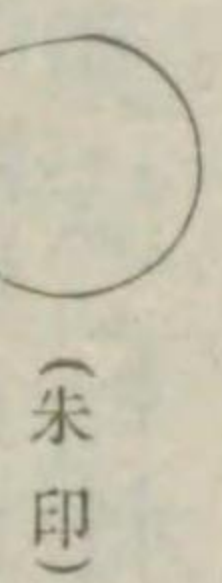
一 德川家光社領寄附朱印狀

(折封ウハ書)
「遠州比木村」

賀茂明神社領

遠江國城飼郡比木村・賀茂明神社領。同所之内・五石事。任
先規寄附之。畢。全可收納。并社中・竹木諸役等免除。如
有來永不可有相違者也。

慶安二年十月十七日



(朱印)

○慶安二年一紀
元二三〇九
朱印文「家光」

二 德川綱吉社領繼目安堵朱印狀

綱吉賀茂明
社領ヲ安堵
ス

(折封ウハ書)
「遠江國城飼郡比木村」

賀茂明神社領

遠江國城飼郡比木村賀茂明神社領。同村之内五石事。任慶
安二年十月十七日先判之旨。寄附之。全可收納。并社
中竹木諸役等免除之。如有來永不可有相違者也。

貞享二年六月十一日



(朱印)

○貞享二年一紀
元二三四五
朱印文「綱吉」

三 德川吉宗社領繼目安堵朱印狀

(折封ウハ書)
「遠江國城東郡比木村」

賀茂明神社領

遠江國城東郡比木村賀茂明神社領。同村之内五石事。并社
中竹木諸役等免除。依當家先判之例。永不可有相違者

古文書 小笠郡 比木村賀茂明神社德川家朱印狀

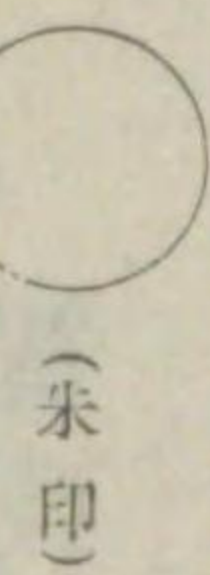
五三

吉宗賀茂明
社領ヲ安堵
ス

家光比木村
賀茂明神社
同村ノ内
五石ヲ
寄附ス

古文書 小笠郡 佐倉村池宮天王社德川家朱印狀
也。

享保三年七月十一日



(朱印)

○以下繼目安堵朱印狀六通同文。年月日及差出人前掲字佐八幡宮ノ分ニ同斷。今省略ニ從フ。

五四

○享保三年一紀
元二三七八
○朱印文「吉宗」

○佐倉村池宮天王社德川家朱印狀

静岡市久能 別格官幣社東照宮藏

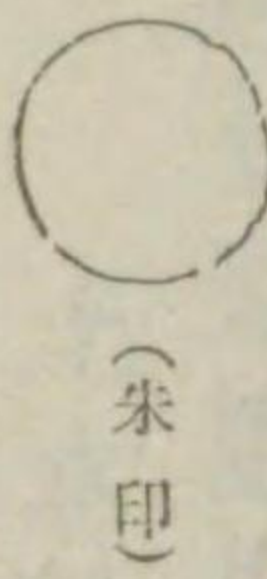
一 德川家光社領寄附朱印狀

(折封ウハ書)
「遠州池宮天王社領」

遠江國城飼郡佐倉村池宮天王社領。同村內拾石事。任ニ先規ニ寄ニ附之ニ訖。全可ニ收納。并社中竹木諸役等免ニ除之。如ニ有來ニ永不レ可有ニ相違ニ者也。

家光佐倉村
池宮天王社
= 同村ノ内
= 同村ノ内
寄附ニテ石ヲ

慶安元年八月十七日



(朱印)

○慶安元年一紀
元二三〇八
○朱印文「家光」

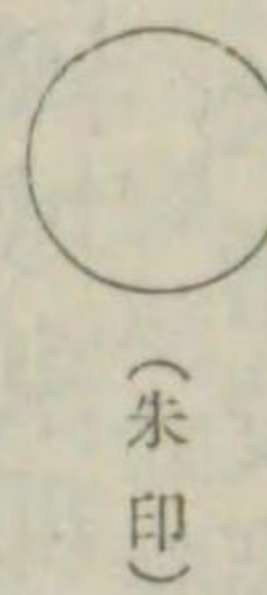
二 德川綱吉社領繼目安堵朱印狀

(折封ウハ書)
「遠江國城飼郡佐倉村」

池宮天王社領

遠江國城飼郡佐倉村池宮・天王社領。同村之内拾石事。任ニ慶安元年八月十七日先判之旨。寄ニ附之ニ訖。全可ニ收納。并社中・竹木諸役等免ニ除之。如ニ有來ニ永不レ可有ニ相違ニ者也。

貞享二年六月十一日



(朱印)

○貞享二年一紀
元二三四五
○朱印文「綱吉」

綱吉池宮天
王社領ヲ安
堵ス

三 德川吉宗社領繼目安堵朱印狀

古文書 小笠郡 佐倉村池宮天王社德川家朱印狀

五五

吉宗池宮天
堵社領ヲ安

古文書 小笠郡 新野村上水神社德川家朱印狀

(折封ウハ書) 遠江國城東郡佐倉村

池宮天王社領

遠江國城東郡佐倉村池宮天王・社領。同村之内拾石事。并社中・竹木諸役等免除。依當家先判之例。永不可有相違者也。

享保三年七月十一日

(吉宗)

○以下繼目安堵朱印狀六通同文。年月日及差出人前掲字佐八幡宮ノ分ニ同斷。今省略ニ從フ。

○享保三年一紀
元二三七八
朱印文「吉宗」

○新野村上水神社德川家朱印狀

静岡市久能 別格官幣社東照宮藏

一 德川家光社領寄附朱印狀

(折封ウハ書) 遠州新野村

上水神領

家光新野村
上水神社ニ
池新田ノ内
寄附テ五石ヲ

遠江國城東郡新野村上水神・領。同所池新田之内五石事。任先規。寄附之訖。全可收納。并社中・竹木諸役等免許。如有來。永不可有相違者也。

慶安二年八月十七日

(家光)

○慶安二年一紀
元二三〇九
朱印文「家光」

二 德川綱吉社領繼目安堵朱印狀

(折封ウハ書) 遠江國城東郡新野村

上水神領

遠江國城東郡新野村上水神領。同所池新田之内五石事。任慶安二年八月十七日先判之旨。寄附之訖。全可收納。并

古文書 小笠郡 新野村上水神社德川家朱印狀

綱吉上水神
社領ヲ安堵

古文書 小笠郡 新野村上水神社德川家朱印狀

社中竹木諸役等免許。如有來永不可有相違者也。

貞享二年六月十一日



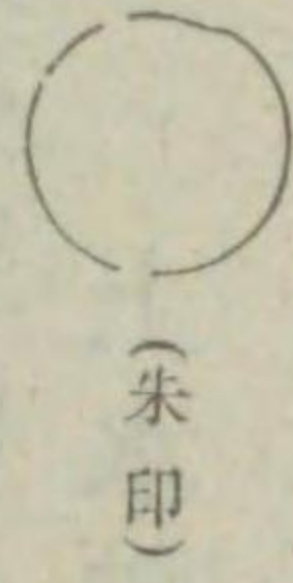
○貞享二年一紀
元二三四五
朱印文「綱吉」

三 德川吉宗社領繼目安堵朱印狀

(折封ウハ書)
「遠江國城東郡新野村
上水神領」

遠江國城東郡新野村上水神領。同所池新田之内五石事。并社中竹木諸役等免許。依當家先判之例。永不可有相違者也。

享保三年七月十一日



○享保三年一紀
元二三七八
朱印文「吉宗」

○以下繼目安堵朱印狀六通同文。年月日及差出人前掲字佐八幡宮ノ

吉宗上水
社領ヲ安堵
ス

ニ同斷。今省略ニ從フ。

○横地村藤谷明神社及天神社德川家朱印狀

静岡市久能 別格官幣社東照宮藏

一 德川家光社領寄附朱印狀

(折封ウハ書)
「社領 御朱印」

遠江國城飼郡横地村・藤谷明神領。同村之内五石。天神社領。同所之内三石。都合・八石事。任先規寄附之訖。全可收納。并社中竹木諸役等免除。如有來彌不可有相違者也。

慶安元年七月十七日



○慶安元年一紀
元二三〇八
朱印文「家光」

家光横地
藤谷明神
社領ノ内
並同村ノ
ニテ都合
石ヲ寄附
ス

二 德川綱吉社領繼目安堵朱印狀

古文書 小笠郡 横地村藤谷明神社及天神社德川家朱印狀

網吉藤谷
神社並
領ヲニ
安天

古文書 小笠郡 横地村藤谷明神社及天神社德川家朱印狀

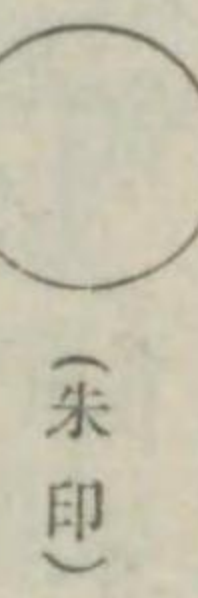
(折封ウハ書)
「遠江國城飼郡横地村

藤谷明神社領

天神社領

遠江國城飼郡横地村藤谷明神社領同村之内五石。天神社領
・同村之内三石。合八石事。任慶安・元年七月十七日先判之
旨。寄附之訖。全可收納。并社中竹木諸役等免除。如有
來彌不可有相違者也。

貞享二年六月十一日



(朱印)

○貞享二年一紀
元二三四五
朱印文「網吉」

三 德川吉宗社領繼目安堵朱印狀

(折封ウハ書)

「遠江國城東郡横地村

藤谷明神
天神社領

遠江國城東郡横地村藤谷明神社領同村之内五石。天神社領
三石。合八石事。并社中竹木諸役等免除。依當家先判之例。
彌不可有相違者也。

享保三年七月十一日



(朱印)

○以下繼目安堵朱印狀六通同文。年月日及差出人前掲字佐八幡宮ノ
分ニ同斷。今省略ニ從フ。

○享保三年一紀
元二三七八
朱印文「吉宗」

吉宗藤谷
神社並
領ヲニ
安天

古文書 小笠郡 横地村藤谷明神社及天神社德川家朱印狀

第十三 周智郡

○可睡齋文書

周智郡久努西村 可睡齋藏

一 武田家禁制

○(朱印) 高札

可睡齋

當手甲乙軍勢。於_二彼寺中_一。濫妨狼藉・堅被_レ停止之_レ訖。若有_二違犯之族_一者。可_レ被_レ處_二嚴科_一者也。仍如_レ件。

元龜三年_中壬

十月廿八日

市川宮内助奉之

○朱印龍文

○元龜三年_一紀
元二二三二

軍勢ノ濫妨ヲ禁ズ

二 徳川家康朱印狀

(朱印) 山中_レ之郷大良右衛門尉くちしたい。いつきも申合。御ちうせつ可_レ申者也。知行之儀ハ。のそみふたいニ可_レ出也。仍如_レ件。

天正四年_一六月十日

三 徳川家康判物寫

三河遠江駿河并・伊豆國。右。四箇國・爲_二僧錄_一之上。曹洞之寺院可_レ致_二支配_一者也。仍狀如_レ件。

天正十一年_一癸未年十一月廿八日

可睡齋等膳

家康(花押)

○朱印文「福德」
○史料編纂所影寫本より採録。
○_一亥
○天正四年_一紀
○元二二三六
○原本は家康自筆なるべしといふ。

○天正十一年_一紀
元二二四三

家康山中出郷
朱印ヲ以テ
知行ヲ致シ
申シム

家康可睡齋
膳ヲシテ
三遠駿豆四
等膳ヲシテ
爲_二僧錄_一之上
國ノ僧録司

四 伊奈忠次手形

古文書 周智郡 可睡齋文書

家康久津部
眞福寺ニ斗
領五石五斗
ヲ寄附ス

古文書 周智郡 可睡齋文書

其御寺領之事

合五石五斗者。

(黒印)

右如先規御寄附之所也。重而御朱印申請可進候間。先當物成預ケ置申候也。仍如件。

慶長六丑

八月廿四日

伊奈備前守

忠次(花押)

久津部

眞福寺

○慶長六年一紀
元二二六一

粟藏全正寺
領可睡齋ニ
二十石ノ朱
印狀ヲ與フ

尙々。御朱印之面。寺廻ニ而。無相違渡可被申候。百姓共ニ早々可有御渡候。以上。

五 小堀正次大久保長安板倉勝重連署狀

態申越候。其地・粟藏全正寺領。可睡へ貳拾石之御朱印被遣候間。前々寺領之内。門前廻ニ而。無相違早々渡可被申

候。爲其別紙を以申候。少も無沙汰有間敷候。恐々謹言。

(板倉)
板伊賀守

(慶長八年)
九月廿八日

勝重(花押)

(大久保)
大石見守

長安(花押)

(小堀)
小新介

正次(花押)

見付

平次屋殿

六 徳川家康曹洞法度朱印狀

(折封ウハ巻)
大洞院

天下曹洞宗法度

古文書 周智郡 可睡齋文書

家康大洞院
曹洞宗ノ

法度ヲ下ス

古文書 周智郡 可睡齋文書

- 一不_レ在三二十年修行成就之_一人。立_三法幢_二事。
- 一不_レ在三二十年修行。致_三江湖頭_二事。
- 一寺中追放之惡比丘僧。於_三諸山_二許容之事。
- 一致_三江湖頭_二。不_レ經_三五年_二轉衣事。并修行未熟之僧。轉衣事。
- 一爲_三末山_二。背_三本寺_二之掟_一事。
- 右條々。若於_三此旨_二者。可_三寺中追放_二者也。

慶長十七年五月廿八日

(朱印)

大洞院

七 德川秀忠曹洞法度黑印狀

(折封ウハ書)
「大洞院」

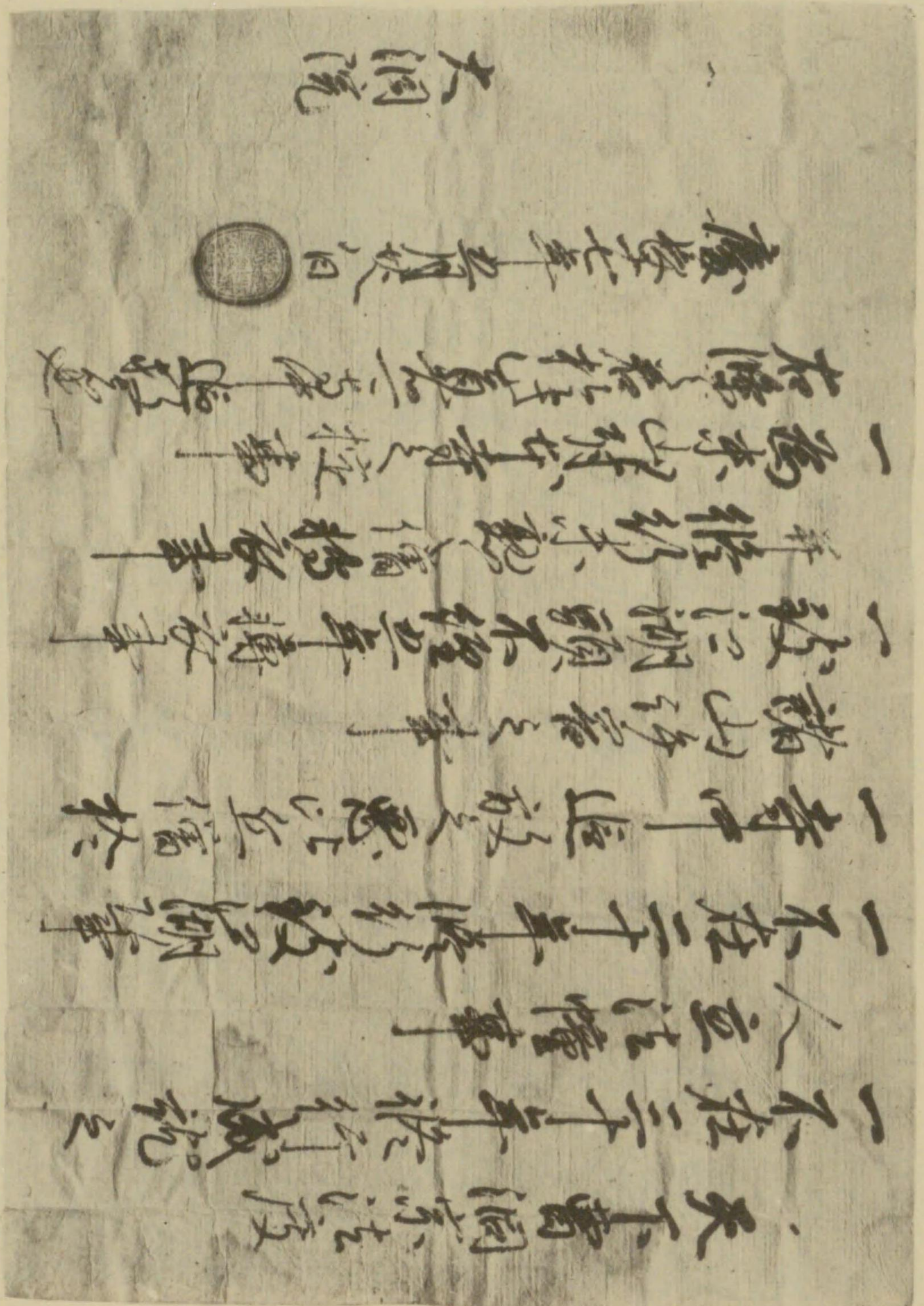
曹洞宗法度

一非_三三拾年修行成就之僧_二者。不_レ可_レ立_三法幢_二事。

五六

○慶長十七年一
○紀元二二七二
○朱印文「恕家
康」

縦四七種
横六七種



四七 德川家康曹洞法度朱印狀 周智郡久努西村 可睡齋藏

秋葉寺ハ草
創ヨリ元和

一不_レ遂_三貳拾年修行_一者。不_レ可_レ致_三江湖・頭_一事。
一寺中追放之惡比丘。於_三諸山_一不_レ可_レ有_三許容_一事。
一致_三江湖頭_一之後。不_レ經_三五年_一并修行・未熟之僧不_レ可_三轉衣_一事。

一諸末寺不_レ可_レ違_三背本寺掟_一事。
右條々。堅可_レ相_三守此旨_一者也。

元和六年正月廿五日

(黒印)

大洞院

○元和六年一紀
元二二八〇
○黒印文「忠孝」
逆に推す。
徑一寸五分。

八 可睡齋雲達訴狀案

(端裏)
「雲達禪師書狀」

奉追而言上

一遠州周知郡犬居之郷大登山秋葉寺ハ。山開・よ_三元和八年

古文書 周智郡 可睡齋文書

八年マデハ
禪家持
信玄秋葉山
ニ放火ス

家康秋葉山
ヲ叶坊ニ與

可睡八代等
膳觀音堂ヲ
建立ス
光播ノ弟子
ト爲ス
光達ヲ住持

大居秋葉
濱松秋葉ト
兩社分立ス

二諦坊濱松
秋葉別當職
ノノ大居秋葉
テノ由緒ト申
掛ク

古文書 周智郡 可睡齋文書

七月十七日ニ死去申昌春迄ハ。代々・禪家よて御座候。雖
レ然信玄一亂之時。大居郷も・秋葉山も放火之地となリ申候
處を。相國様かのう坊(叶)ニ被下候へ共も。山取立申事不罷
成。鹿之伏土ニなリ。申處を。可睡八代等膳和尚 相國様
之得御意・被成。其故かのう坊へも申理。我等果候上ハ。
一跡・別當職相違有間敷候と一筆をとり。山中筋へ血脈を
・さだけ。此施物よて觀音堂を初大形寺家建立・被成。先
之光播(播)之弟子光達を住持と定置被成候。縦かのう坊一筆
無之候共。一亂之以後以御誼・草切を仕。元和八年迄。
禪家より持ため申候處・歷然よて御座候事。
一二諦坊只今申通ハ。一札手切之時。大居秋葉濱松・秋葉と
兩社ニ立而。旦那所ヲけくニ罷成。濱松秋葉へハ。其近
郷隣郷を勸進所と定。于今・二諦坊へ所務申候。此濱松秋
葉別當職之ゆだり・狀を以。昌春死去後山伏共内談仕。大

五

二諦坊ハ秋
葉山ハ眞言
宗ナリト稱
ス

家康秋葉別
當職ノ朱印
ヲ禪家ノ光
幡ニ下ス

居秋葉之由緒と申掛候事。

一昌春大峰へ入申候間二諦坊眞言宗と申候。他宗之儀者不
レ存。禪宗ハ八宗兼學爲大海不選塵宗旨よて御座候間。
眞俗共ニ大峰へも高野山へも參詣・仕候。代々禪家之證據
ニハ。光達をぞ可睡九代禪易・和尚慶長八年四月十一日ニ
遷化仕候を。通峰光達・坐元禪師と禪家首座之位ニ焼香申
候。後住昌春ハ・光達取立之筋目を以。元和八年七月十七
日ニ死去・申候を。可睡九代之隱居所一雲齋之當住禪參・和
尚を山伏中麓之庄屋中連狀よて申請。山翁昌春座元禪師
と。是をも禪家首座之位ニ焼香仕候事。
一相國様秋葉別當職之 御朱印。禪家之光・播(播)ニ被下置候。
住持ハ一代寺ハ末代ニ而御座候事。
一拙僧加様ニ申上候儀者。兩通之 御朱印を・奉頂戴ニ禪家之
末寺小庵ニ至迄。如前々之申付候。其上先師等膳和尚ハ。

古文書 周智郡 可睡齋文書

五九

宗旨爲末世之運。丹精。殿堂立置被成。代々禪家之木像位牌を双置。申候山を。只今到愚僧。無理他宗。被取申候由。御奉行所へ聞え申候へ。如何奉存。乍恐如此。申上候。一天靜謐曹洞宗奉。御朱印守護畢。誠惶誠恐敬白。

寛永二年卯月

可睡齋

雲達(花押)

御奉行所

可睡齋ト二
葉坊トノ秋
山ニ關スル
出入ヲ裁

九 酒井忠世外七名連署狀

以上

今度可睡齋二諦坊・秋葉出入之義。

兩御所様達。上聞候處。相國様任。永祿拾貳年御判形

定ス

之旨。可睡齋理運。被仰付候。秋葉寺法之儀。萬事。光幡如住持之時之。在之様。秋葉山衆中へ。可被申渡候。恐々謹言。

五月晦日

嶋田彈正忠

(花押)

伊丹播磨守

(花押)

板倉内膳正

(花押)

松平右衛門佐

正久(花押)

井上主計頭

正就(花押)

板倉周防守

重宗(花押)

古文書 周智郡 可睡齋文書

土井大炊頭

利勝(花押)

酒井雅樂頭

忠世(花押)

高室金兵衛殿

一〇 江戸幕府老中連署奉書

以上

可睡齋住持之儀。秀天可然之由。被_ニ申上候。達_ニ上聞_一候之處。可_レ爲_ニ住職_一之由。被_ニ仰出_一候。嗣法相續尤候。恐々・謹言。

幕府秀天ヲ
シテ可睡齋
住持爲ラシム

寛永十一戊

三月二日

松平伊豆守

信綱(花押)

○折紙

○寛永十一年
紀元二二九四

全生寺

酒井讚岐守

忠勝(花押)

土井大炊頭

利勝(花押)

酒井雅樂頭

忠世(花押)

一一 可睡齋士峯宗山書狀

尙以。明日者御出可有候。其地より直ニ見付へ御出可有候。

一書令_レ通候。一昨日者御出忝存候。然者 記州様明晩_ニ

見付へ御つき可_レ被_レ成候由。申來候間。左様ニ候ハ、我々

も罷出可_レ申候間。貴寺も御用意候而。見付金剛寺迄御出可

古文書 周智郡 可睡齋文書

徳川見付ニ
到着ノ事

見付ノ金剛
寺

古文書 周智郡 可睡齋文書

被_レ成候。我々も自_レ此方_ニ可_レ參候。御進上之物・何_レて候ん哉。承度候。不能_レ具候。恐々頓首。

五月六日

士峯(花押)

進上 可睡齋 衣鉢座下

宗山

五四

○士峯宗山可睡
十三世寛永十
二年九月寂。

一一一 本多家々老佐野千貫書狀

猶以。拙者少も御無沙汰ニ無_レ御座候間。左様ニ御心得可_レ被_レ下候。以上。

如_ニ御意_ニ未_レ得_ニ貴意_ニ候_レ所。預_ニ尊書_ニ拜見仕候。隨而石野村
菩提寺・山札米之儀。代々御・寄進被_レ成候へ共。今・度越_{前守}
入部以・後出シ不_レ申_ニ付。相・談仕候様ニ_与被_ニ仰下_ニ候。内々菩
提寺へ如_ニ申_ニ入候。今程越前守幼・少之儀御座候條。家・老之
者。并郡奉行・計_ニ不_ニ罷成_ニ候間。拙者・御如在_ニ無_ニ御座_ニ候。

横須賀城主
代石野村
菩提寺ニ
札米ヲ寄
進ス
本多利長
部以後未
ダ寄進セ
ズ

○本多利長横須
賀城主正保元
年六月

○折紙

右之・段被_ニ聞召分_ニ可_レ被_レ下候。恐惶謹言。

佐野與五左衛門

正月廿三日

千貫(花押)

可睡様

御納所

貴報

一一三 可睡齋松頓口上書控

(端裏附箋)
慶安二年關三ヶ寺豆州・支配之異論有_レ之節奉行所_ニ被_ニ差出_ニ口上書。
松頓和尚代

(端裏書)
「寺社御奉行處へ之」
可睡齋松頓和尚代

謹言上

一 權現様可睡齋八代等膳ニ御皈依之由緒御座候ニ付。十代・

古文書 周智郡 可睡齋文書

家康八代等
膳ニ皈依ス

五八五

○繼紙

十代宋山僧
録ヲ仰セ付
ケラル
法度朱印
上書ニ大洞
院ト申請ス

古文書 周智郡 可睡齋文書

宋山を被_レ召出_レ僧録被_レ仰付。法度之 御朱印被_レ下候砌。
宋山望_レ申上 御朱印之上書をも大洞院と申請。箱根ノ西
東海道之_レ僧録ニ相窮候儀。其隱無_レ御座候。則宋山書置も
御座候。又去々_レ年松平衛門太夫殿へ拙僧參候刻。 權現
様宋山ニ法度之_レ御朱印被_レ下候砌。衛門殿御取次之由ニ而。
次第御物語被_レ成候ニ。右之旨_レ少も相違不_レ申候。其後御寄
合所へ。右衛門殿御越之時分御兩所_レ御前ニ而。其首尾申
出。宋山書置御披見ニ入申候事。

一 台徳院様御代ニ伊豆之修禪寺公事有_レ之。關東三ヶ寺_レ仕置
被_レ申付候處ニ。可睡齋先住雲達御當地へ罷下。其時之_レ御
老中へ申上候者。伊豆之儀者。 權現様被_レ爲_レ 仰付。可
睡齋支配之國ニ相極候處ニ。此度修禪寺公事三ヶ寺_レ勝被_レ
申候儀。迷惑仕之由。御訴訟申候ニ付而。三ヶ寺可睡齋_レ公
事ニ罷成。數度對決之後。酒井雅樂頭殿。安藤對馬_レ守殿。

秀忠ノ時可
睡齋ト修禪
寺ト公事ア

修禪寺住
持傳達ヲ
放取寺ニ
可取ルヲ
請取ルヲ
箇取ルヲ
致シテ
訴裁定

土井大炊介殿。永井右近太夫殿ニ而。御寄合被_レ成。雲達_レ
理運ニ被_レ仰付。修禪寺住持傳達を永代致_レ追放。則寺を_レ可
睡齋へ請取。雲太と申長老後住ニ申付候儀。其隱無_レ御座_レ
處ニ。先御奉行御仕置を齧。今度三ヶ寺兎角被_レ申候事不
審ニ_レ存知候事。
一 拙僧可睡齋へ被_レ仰付罷登申候時分。總寧寺宿所へ暇乞ニ
罷越候刻。長齋和尚拙僧ニ被_レ申候様者。東海道之儀者貴
寺之_レ仕置ニ而候得共。伊豆ニ而寂勝院藏春院者我等門中
之_レ儀ニ候間。從_レ總寧寺_レ仕置可_レ申付候。左様ニ得心候而
可_レ給と_レ被_レ申候間。拙僧返事申候者。伊豆之儀者先年修禪
寺支配_レ之儀ニ付而。三ヶ寺可睡齋双論候處ニ。可睡齋理運
ニ而。支配之國ニ相極候間。于_レ今左様ニ有_レ之由承候。右
之公事之時分。拙僧者。大中寺之伴侶存知候。殊門中切
之仕置と申儀者有_レ之間舖候間。必仕置御無用ニ而候と申

古文書 周智郡 可睡齋文書

候得者。左様成に於いてハ尤ニ候由。被_レ致_二領掌_一候得共。代々三ヶ寺支配致度と被_レ存候儀者。先年修禪寺公事可睡齋致_二理運_一候遺恨りや存候事。

一 權現様甲州廣嚴院住持ニ吞貞被_レ爲_二仰付_一候而。以後・吞貞西尾 丹後殿を頼。甲州之僧錄致度之由宋山へ被_レ望候ニ付。宋山權現様へ奉_レ得_二上意_一候得共。宋山・次第と被_レ遊_二御意_一候付而。宋山廣嚴院へ甲州僧錄之書付を出置候。次ニ大泉寺ニも宋山書付出置候條。甲州之儀可睡齋支配之國歴然ニ而御座候事。

一 去年捻寧寺と玄尊公事仕候時分も。宋山書付愚宿へ持參仕。廣嚴院者宋山之書付を以僧錄仕來。可睡齋之手代ニ而候處ニ。捻寧寺ハ兎角被_レ申候儀迷惑之由。様々申候得共。其砌宗門仕置之相談仕。御奉行御老中迄得_二御意_一候處ニ。僧錄中間和談不_レ仕候而者。仕置調申間舖事如何と

家康吞貞ヲ
甲斐廣嚴院
住持ト爲
ス
宋山家康廣
嚴院ヲ甲斐
スノ僧錄ト爲
ス
甲斐ハ可睡
齋支配下ニ
アリ

三箇寺ガ伊
豆マデ支配
致スハ不當
ナリ

存知。玄尊申分承引不_レ申指置候得者。剩伊豆迄・三ヶ寺可_レ致_二支配_一と被_レ申候事。不_レ聞儀や存知。今度如_二前々_一被_二仰付_一可_レ被_レ下候事。
右之條々關東三ヶ寺を被_二召出_一被_レ遂_二御穿鑿_一被_二仰付_一候者。伊豆ニ而宸勝院藏春院儀も相濟可_レ申りや奉_レ存候。以上。

慶安二年二月 日

可睡齋
松頓

寺社
御奉行所

一四 關東三箇寺連署返答狀

(端裏書)
「松頓和上代

古文書 周智郡 可睡齋文書

○慶安三年一紀
元二三〇九

箱根以西東
海道僧錄ニ
就キテノ證
文

修禪寺ノ公
事三ヶ寺修
隱居人等
寺ヲ追放シ
察ヲ後住ト
ナス

修禪寺ノ支
可睡齋ノ支
配トナルヲ
伊豆一國ノ
配ノ證據ヲ
可睡齋ニ尋
マベシ
伊豆最勝院
藏春院支配
ノ事

甲州僧錄ノ
事

古文書 周智郡 可睡齋文書

三ヶ寺と支配論有之

三ヶ寺ノ返答

謹返答

一從箱根一西東海道之僧祿(錄)ニ相窺申候由可睡齋被申候。定而
・證據可有之候。其寺先師之書置有之候共。於御公儀一者
・證據ニ難成義も可有之候。關東三箇寺ニも。或者 印宣。
或者其寺家其派之威光數通先師書置有之候得共。是を先
・立誇我儘難成存候事。

一修禪寺公事之義者。廿六七年以前當住隱居出入有之候處
ニ。三ヶ寺々修禪寺隱居并僧三人之衣を剝。其上良察と
申長。老を後住ニ定。江湖興行可致之旨。修禪寺當住ニ其
時之三箇寺被申付候。然處ニ。修禪寺隱居申立候者。大
源派之修禪寺を關東三ヶ寺之下知以通幻派ニ被致候由可
睡へ申届候。就之對・決之上。當住追放ニ候。前々者修禪

寺も關東々支配致來候得共。此公事以來修禪寺計可睡之
下知ニ隨申候。其外伊豆一國之内從ニ往古去年迄支配致
候證據可睡齋ニ御尋可被下候事。

一總寧寺隱居伊豆國最勝院藏春院之支置致度由。可睡へ望。
被申候と書上候。又三ヶ寺も代々支配致度と存候由。可睡
齋申上候。沙門不似合倒成被申事ニ候。御朱印被下候
以前も。以後も。去年之秋當春迄。初法幢師江湖頭も三ヶ
寺へ披露致來候得者。抑推量ニも爭左様ニ可申哉。如此申
上候。可睡却而從ニ。去年秋ニ企新規。支置望被申候。於宗
門ニ者。翻案之法と是を申候。此段も證據御尋可被下
候事。

一甲州僧祿(マ)之義者。十一年以來卯ノ年廣嚴院。大泉寺。僧祿(マ)
公事被致候ニ付而。兩御奉行子細ニ御存知被成候間。不
及ニ申上ニ候。縱宋山御取次被申候間。書物有之候共。

古文書 周智郡 可睡齋文書

五九

五〇

古文書 周智郡 可睡齋文書

御朱印三ヶ寺可睡齋へ被下候以前も以後も。支配致候證據。可睡へ御尋可被下候事。

一 甲州之僧祿者。可睡齋之手代候由。玄尊申付而者。去年之春廣嚴院追放之砌者。斷有之歟。追放以後其沙汰可有之事候。此度可睡齋五ヶ條之被申候分者。皆々古雜談之様ニ存候。雖然從往古去年迄支配被致候證據可有之候間。可睡齋へ御尋可被下候事。右之條々。可睡齋ニ證據可有御座候間。急度御穿鑿所仰候。以上。

慶安二己丑年三月十九日

龍穩寺

嶺樹(花押)

大中寺

門解(花押)

總寧寺

○慶安二年一紀
元二三〇九

寺社

御奉行所

英峻(花押)

一五 久津部村阿彌陀堂別當新福寺等書上

一 遠江州山名郡久津部村阿彌陀堂五間六間也。阿彌陀者春日御作也。天文年中開ケ。年數凡及三百廿(季)申候事。
一 右之阿彌陀如來。自往古至于今。國中之道俗男女致信仰支。無比類故。每月別而朔日十五日。貴賤郡衆而致。
・通夜儀。國中其隱無御座候事。

一 境内山林五町四方。從前々一寺納仕來候所紛無御座候間。雖爲少寺。領所之大地古跡歷然條。御朱印被下置可然地御座候。爲後日由緒如件。

古文書 周智郡 可睡齋文書

別當新福寺

慶安二己卯月廿八日

元達

(黒印)

宮崎三左衛門

(黒印)

寺社

御奉行所

可睡齋

松頓

(黒印)

○慶安二年一紀
元二三〇九

可睡齋ノ松頓寺社奉ノ
所ニ家康ヲ以
來ノ住持以上
書上

一六 可睡齋松頓書上控

權現様以來本寺に被_レ仰付候・衆之覺。
松薫を大中寺に被_レ仰付候。龍雲院に隱居良雄被_レ居候。
泉龍を龍穩寺に被_レ仰付候。今之吞察被_レ居候。
嶺諸を龍穩寺に被_レ仰付候。延明寺に是作を指置罷移候。
恕徹を捻寧寺に被_レ仰付候。時者。松薫よ_レ借住に而御座
候間。龍雲院を松薫に返し罷移候。

良尊を捻寧寺に被_レ仰付候。花林院に良頓を指置罷移候。
吞察を龍穩寺に被_レ仰付候。吉祥寺に鷹廓を指置罷移候。
春道を龍穩寺に被_レ仰付候。青松寺に牛幢を指置罷移候。
文利を捻寧寺に被_レ仰付候。多寶院に今之英俊を指置罷
移候。

韓驚を大中寺に被_レ仰付候。功運寺に秀寅を指置罷移候。
可睡齋に被_レ仰付候三人者。先日書上申候。

此外永年寺に被_レ仰付候。先住秀察。當住龍察。今之三箇
寺之外上意之衆者無_レ御座候りと奉_レ存候。

(慶安)
三月十日

松頓

寺社

御奉行

石藏院ノ入
院
總寧寺ノ末
寺

古文書 周智郡 可睡齋文書

一七 榊原照清書狀

未_レ得_二御意_一候得共。一筆・令_二啓上_一候。然者石藏院儀・致_二入
院_一候付而。總寧寺・末寺故。爲_二繼目之禮_一。此方_レ罷越候。貴
寺_レ・參上仕候由申候間。扱如_レ此御座候。被_レ成_二御逢_一可_レ被
下候。委細・石藏院可_レ爲_二演說_一候。恐惶頓首。

十二月廿六日

榊原越中守

照清(花押)

可睡齋

侍衣閣下

一八 江戸幕府老中連署奉書

參河遠江駿河・此三箇國曹洞宗。并・伊豆國修禪寺之・門派如_二
前々_一可_レ爲_二僧祿_一之旨。所_レ被_二仰出_一也。有來通可_レ被_レ致_二。

可睡齋ヲシ
テ參遠駿三
國并伊豆
修禪寺門派

○寛永十一年六月
任越中守叙
元正保三年
より元祿十
警衛に任じ
元祿十六年
す。

○奉書折紙

ノ曹洞宗僧
録爲ラシム

沙汰_一者也。仍如_レ件。

萬治四丑

三月廿日

可睡齋

美濃守 (稱集正則) (黒印)
豊後守 (阿部忠秋) (黒印)
伊豆守 (松平信綱) (黒印)
雅樂頭 (酒井忠清) (黒印)

○萬治四年 元年
一 紀元二二二二
○黒印文「正則」
○黒印文「忠秋」
○黒印文「信綱」
○黒印文「忠清」

(端裏書)
「万治四年
御國割書寫」

一九 關東三箇寺并可睡齋連署僧録國割書控

先年松頼長老豆州ヲ從_二可睡齋_一可_二支配_一張行_二付而_一。對_二三箇
寺_一一年久異論雖_レ有_レ之。終不_二其埒明_一候。以_二其非例_一。去_二庚子年_一。
寬宅長老於_二御_一 公儀_二種々我儘_一ヲ申立。殊以_レ驕新僧録ヲ申

古文書 周智郡 可睡齋文書

五七

五六

僧錄場ノ國
割ヲ仰付ク
駿遠三三箇
國ハ可睡齋
スノ支配トナ

古文書 周智郡 可睡齋文書

付。重疊之罪過不輕故。同臘月廿一日。於御評定所。豐前國流刊被仰付。就其可睡齋後住嶺育長老被仰付。其上當月廿五日。御老中以御下知。寺社御奉行井上河內守殿御宿所。三ヶ寺并新可睡齋嶺育長老御呼出。面々列座。而僧錄場之國割被仰定候。駿州遠州三州右三ヶ國者不殘。此外豆州者修禪寺一卷計。如先規可睡齋支配被仰渡候處歷然也。後來爲證據互連判如斯。已上

維咤萬治四辛丑曆三月廿八日

此時御老中

酒井雅樂頭殿
松平伊豆守殿
安部豐後守殿
稻葉美濃守殿
寺社御奉行
井上河內守殿

掾寧寺 光紹印
大中寺 吞鷲印
龍穩寺 三宅印
可睡齋

五九

○萬治四年一紀
元二三二一

井上河內守
梅林院
先住寅龍長老
衣鉢ノ上
取上ノ訴
ラ取上ノ訴

板倉阿波守殿

豆州

叡勝院置之。

嶺育印

二〇 關東三箇寺連署狀

當月十日之井河內守殿寄合而。梅林院先住寅龍長老衣鉢之訴訟被致。則御容免被遊。殊拙僧共被仰渡候様者。從三ヶ寺貴寺可申達由御意候間。貴寺々其許高尾五派末寺門中。此段被申聞。衣鉢并寅龍私之諸道具渡候様と被仰付候間。此段急度右之寺院可被申聞者也。此等旨於閣下侍者披宣。恐惶頓首。

寅ノ

九月十二日

追啓。彼寅龍長老其上歸山之訴訟。達而申候得共。侍者御奉行處而古文書 周智郡 可睡齋文書

五九九

古文書 周智郡 可睡齋文書
堅御取上・無之候。彼長老錢金も有之由被申候。以上。

捨寧寺

光紹(花押)

大中寺

尊海(花押)

龍穩寺

三宅(花押)

進上

可睡齋

衣鉢閣下

二 江戸幕府諸宗法度寫

定

一 諸宗法式不可相亂。若不行儀之輩於有之者。急度可及

幕府諸宗法度ヲ下ス

・沙汰事。

一 不存一宗法式之僧侶。不可為寺院住持事。

附。立新義不可說奇怪之法事。

一本末之規式不可亂之。縱雖為本寺。對末寺不可有
・理不盡之沙汰事。

一 檀越之輩雖為何寺可任其心。從僧侶方不可相爭事。

一 結徒黨。企鬪諍。不似合事業不可任事。

一 背國法輩到來之節。於有其屆者。無異儀可通之事。

一 寺院佛閣修復之時。不可及美麗事。

附。佛閣無懈怠掃除可申付事。

一 寺領一切不可賣買之。并不可入干質物事。

一無由緒者。雖有弟子之望。猥不可令出家。若無據・子
細於有之者。其所之領主代官相斷。可任其意事。

右條々。諸宗共可堅守之。此外先判之條數・彌不可相背

寺領ノ賣買ヲ禁止

古文書 周智郡 可睡齋文書

古文書 周智郡 可睡齋文書

之。若於違犯者。隨科之輕重可沙汰之。猶載下知狀者也。

寬文五年七月十一日

可睡齋

六〇三

○寬文五年一紀
元二二二五

二二 井伊直武寺領寄附判物

遠江國周智郡・上山梨村新田之内・高拾石事。

右雲光院殿爲佛供料。如先規令寄附者也。仍如件。

直武可睡齋
上山梨村
新田之内
石ヲ直勝
佛供料ト
テ寄附ス

寬文十三年

十一月十一日

可睡齋

井伊伯耆守

直武(花押)

○折紙

○寬文十三年
元一紀元二二三
三三

二三 井伊家寄附靈膳目錄

雲光院殿御灵膳之覺

一掛盤 本二三

一椀 本二三

一坪皿 壹

一平皿 壹

一食次 杓子共壹

一湯次 壹

一茶椀臺 壹

右黑塗内朱紋丸橘蒔繪

一靄龜燭臺 貳本

一香爐獅子 壹

一花瓶 貳本

井伊直勝ノ
靈膳ヲ可睡
齋ニ寄進ス

古文書 周智郡 可睡齋文書

○折紙

○雲光院殿一井
伊直勝

六〇三

古文書 周智郡 可睡齋文書
右五具足金紫銅

以上

延寶三年卯

十二月十一日

小野八右衛門○
(黒印)

可睡齋

御納所

○延寶三年一紀
元二二三三五

○紙繼目裏に
「任」「忠真」
「正永」の黒印
あり。

可睡齋ト大法
洞院トノ訴
式異論ノ訴
訟ヲ裁許ス
可睡齋訴ノ
旨
大洞院ハ太
原ノ直弟梅
山ノ道場ニ
テ二代如仲
ノ開基ナリ

二四 江戸幕府寺社奉行裁許狀
遠州周知郡上久野萬松山可睡齋與中田雲林寺。飯田崇
信寺。堀越海藏寺。幡鎌最福寺。本寺大洞院之法式異
論裁許之條々。
可睡齋藝訓訴旨。遠州周智郡橋谷山大洞院者。大源之直弟
梅山之道場而。二代如仲之開基也。其法嗣喜山眞嚴。不

大洞六派ノ
門主

大洞院ト可
睡齋ト兩寺
ヲ一寺ノ表
勤ム

可睡齋大洞
院ノ朱印ヲ
收メ同院ヲ
指揮ス

四派本山輪
住請狀ノ舊
式ヲ濫ス

琢石叟。物外大・輝。各造建寺院爲大洞六派之門首。每
歲開山忌九月七日。二代忌二月五日。門葉數十百供聚會
于本山道場。而修其追福者也。然處彼門首之所存區而。
會式不如法。嗟歎尤不淺。就中慶長十七年可睡十三代
宋山被命僧錄司。其御朱印被充于大洞院。自是大
洞與可睡兩寺一寺之表役八十年來所相勤也。加之慶安
二曆大洞院境內之御朱印。又十七代秀天頂戴之兩度之
御印章。相收于可睡齋。是以大洞院之事。無大小可
睡令指揮之者也。爰往歲不琢派雲林寺。石叟派崇信寺。
物外派海藏寺。大輝派最福寺。以密計濫本山輪住請狀
之舊式。奪取現住之直務。爲門首之任。此請帖之式者。
現住之要領也。然恣變改之。仍及糺明之處。四派之罪科
難遁。就法王派之兩寺謝之。自今以後本山之勤行客殿
座位之次第不可有非禮。且可睡齋登山之時可有送迎

古文書 周智郡 可睡齋文書

四派罪セラ
レ大洞院ノ
事ハ可睡齋
ノ指揮ニ任
ス如仲忌ノ
時四派又信
約ニ背ス

雲林崇信海
藏最福四寺
ノ答旨

本山ノ事ハ
六院ノ衆議
ニ依ル

古文書 周智郡 可睡齋文書

之儀。其餘大洞院之事。不依何等可睡之旨意。有違背間敷之由。依相違之。再應取證書令。宥免其咎者也。依之今春如仲忌之節者。可改客殿之被位處。四派不聽之。剩種々信約之旨申紛之間。招于役寮記其口上雖令加印形。猶任雅意不承服。如此違背之者於指置之者。僧錄之掟將來難立之旨申之。

雲林寺堯聞。崇信寺咄仙。海藏寺文英。最福寺洞牛答趣。大洞院門。下自六派相立以來輪番巡次勤之。乃至堂宇等之修造迄。六派配分役之。凡本山之事。只六院之衆議而。更非有可睡之指圖。其外平日之勤行者。隨如仲之遺命。若有差失之儀者。以衆評宜改定也。拙僧等心底區而非敢厭法儀之興隆也。慶長十七年宋山被命僧錄之事者。大洞開山二代之道德。預達台聞。以六派衆評曹洞一宗之法度可執行之旨。奉蒙鈞命。此儀以六派連印

大洞可睡兩
院別式ノ證
據ヲ舉グ

記之。其書在于今。其翌年御朱印之儀。以衆評奉願之被成下於宋山。乃奉納于大洞院連年之住番大切相守之。其事又記交割之古牒。其後大洞院境内之御朱印又以衆評奉願之。此時可睡秀天捧慶長之御朱印。到江府從是兩般之御朱印留在可睡。夫嶺香兩寺一寺之異論者。先年關東三箇寺有取嚙之儀。不爲兩寺一寺之譯。其覺書之初箇條具辨之。且可睡雖僧錄之後雲達有直住之輪番。延寶之末。東叡山御法會之納經大洞可睡各別獻之。是皆兩院別式之證也。當春二代忌可睡名代來會之刻。捨客殿之被位。向後移于客寮。自上座任藹次可列着。若於不改之者。拙僧等背去年之證文由。代僧達之。併捨古來之被位可移于客寮之段。去歲之證文不曾載之。以故不承諾之。矧此被位者不限于四派。喜山派三州龍溪院在其列之間。以五派一同之對狀。

古文書 周智郡 可睡齋文書

欲加印章。仍雖令招龍溪院不得許容。是以悖可睡之禪旨之由申之。

雙方數度之詮議。且所指出之舊記等。遂吟味之處。大洞院之事。在先代者。雖爲六派一同之衆評。慶長十七年可睡齋十三代宋山被命僧錄司。其御朱印大洞院與被充下之。宋山拜戴之。且舊記之中大洞院一回之指南牒。雖衆評之述作也。其印形者。可睡十五代雲達一人也。其牒末之小庫裏造構之一條。又十六代存康一判也。於今大洞院。以此牒之司南爲輪守之軌範。是可謂可睡指揮之一證也。四派申者。雲達印形者直住之時也。存康判形者其年之輪番當眞巖派。以此故。唯一印而已也。五派又有此例。慶安四年祠堂金之牒。其卷軸物外派海藏寺梵益點一印。是其類證之由陳之。仍檢察之。其牒自慶安四歲。至萬治三曆末。又慶安四歲七月晦日與書之。其下唯有海

藏寺一印。而。外可爲後鑑。文句無之。尤不足爲準證。且指南牒者。請帖一時授于新命。其式例久遠之由。可睡四派俱述之。於然者。眞巖派永江院光寅住番者。寬永六年八月朔日入院。其存康追加之一條者。寬永七庚午。二月五日也。此時司南牒者。新命不琢派雲林寺安突方可在之。況二月五日者。如仲之忌辰而。爲門葉聚會之時。只有可睡一叟之判形。是。又非存康自由之作意也明矣。至若去年十月住番請狀之掟可睡申。渡之四派令得其意之旨。以連印達于可睡之條。所受其指揮顯然也。將來隨其先蹤衆議之上。可睡愈可致指揮者也。四派所述慶長十六年六派之連署者。只是如仲門下之法式。且宋山僧錄以前之書記也。不足舉而議之。

一大洞與可睡爲兩寺一寺乎否之事。寬文十二年可睡嶺香與五派銜楯之時。關東三寺取扱之最前者。以兩寺一寺

之謂雖爲。是五派・依愁訴不已。除兩寺一寺之文。而御朱印大洞院與就成下之。雖掌僧錄之職。可睡者六派之第二而爲大洞院末寺。可睡又其料・簡可然也與改之。右書替之文意不分明。四派是以不爲兩寺一寺之儀者。先年三箇寺埒明之由申之。今察此兩樣。就六派之流例者。則可睡并五派俱爲大洞門葉之一列。大洞院兩般之。御朱印可睡領納之。以勤僧錄之職。而視之則大洞與可睡兩寺一寺之論。其說亦有謂矣。雖然初宋山被命于僧錄之時。依尊崇本山其旨達。上聽。御朱印被充下于大洞院之由。人口之所傳各相述之間。可睡可有其心得。今此兩斷之趣。雙方明辨而不可企混亂之說也。

一客殿座位之儀。可睡齋最初者。於客殿立四箇之被位事。賓禮之饗・應而有煎點之時也。大洞院周忌之節者。非他

客殿ニ關スル座位裁決

山之參會。殊無法式之執行。唯平生之食座也。然處立此被位者。不叶法義之間。改年來之座席可移于客寮之由申之。四派答旨者。大洞院客殿之座位。本尊之正面中央之上席可睡座之。其左右與八尺之間兩邊者五派之門首着之。從先代用此式來。他山猶有此例之由述之。於是關東三寺招于列席問尋諸山之類例。永平寺之開山忌齋粥之座者。山主居于中央之上席。門首寶慶寺着其左。僧錄孝顯寺座其右。前面之兩傍者。其年聚會之高薦着之。其七條衣之威儀者。皆一同。他自客寮以薦次致序列之儀者。大抵諸所先師之忌辰門葉交會之時。一座互格之貴賓無之故往々如此。於大洞院而可睡中央之座者。可爲崇敬之由演說也。然者永平大洞於座配者。如無差異。以是再示于可睡。可睡於斯大洞院之座位儻搭七條法衣食前唱心經諸偈而齋粥半齋於執行之者。雖爲

略法_レ祇今之被位不_レ改而佳也與述_レ之。四派亦無_レ異儀_レ之由及_レ領掌。後來諸般之儀雙方令_レ和睦。莫_レ至_レ于背戾。仍記_レ裁斷之旨_レ卑_レ之可睡與四派不_レ可有_レ違失_レ者也。

元祿七年_{甲戌}年閏五月廿七日

本紀伊 ○ (黒印)

戶能登 ○ (黒印)

松壹岐 ○ (黒印)

遠州周智郡上久野村

可睡齋

直朝可睡齋
梨新
山十石
上内ノ佛
田直勝ノ
ヲ直勝ノ
供料トシテ
寄附ス

二五 井伊直朝寺領寄附判物

遠江國周智郡・上山梨村新田之内・高拾石事。

右雲光院殿爲_レ佛供料_レ。任_レ先規之旨_レ令_レ寄_レ附_レ之_レ。訖。仍如_レ件。

元祿十二年卯

井伊兵部少輔

○元祿十二年
紀元二三五九

○元祿七年_{甲戌}紀
元二三五四
○黒印文_{正永}
○忠眞_任
○本多紀伊守正
永
戶田能登守忠
眞
松浦壹岐守棟

三月廿四日

直朝(花押)

二六 可睡齋由緒書

遠陽州周智郡久野郷萬松山可睡齋起立。并_レ開山中興之由來略記。
住持沙門藝訓拜誌。

大日本曹洞初祖道元和尚第八世嫡苗忽仲和尚者。傳聞。其先江州之人也。後小松院御宇應永年中。飛錫當國。止履於久野城之傍一株松下。營_レ艸廬。此松于_レ今爲_レ榮。俗喚_レ之。號_レ大通庵。屢紳_レ蒲團。其德薰_レ都鄙。其法麗_レ素瑤。幽居當國刺史久野城主師氏道譽慕_レ師。芳情常敲_レ蓬戶。甚繁。師厭_レ之。需_レ寂寥_レ入_レ深山_レ二三里。層嶺魏々中間_レ結_レ茅。以號_レ華藏庵。韜晦年久輝_レ法光。與_レ里仁_レ相共終架_レ禪室。構_レ叢林。卒隣_レ橘村。因以稱_レ橘谷山。大洞院。分瓶六流所謂喜山。備_レ中之國。真嚴_レ當寺。不琢_レ。當國雲_レ石叟。駿_レ之久。開山遠_レ之飯物外。藏_レ開山。大輝_レ當國。西次第如_レ是。各啓_レ迪_レ禪林。施_レ法幢於田崇信開山。藏_レ開山。大輝_レ當國。西次第如_レ是。各啓_レ迪_レ禪林。施_レ法幢於宗風。橘谷之蹊彌隆_レ行_レ世。謂_レ之大洞六派。抑當山中興五世大路和尚。

住持藝訓由
來ノ略記ヲ
作ル
忽仲遠江久
能_レ草廬ヲ
營_レ大通庵
ト號ス

久能ノ奥山
=華藏庵ヲ
建立シ橘谷
山大洞院ト
號ス
大洞六派

○卒_一幸

古文書 周智郡 可睡齋文書

永正年中大踏可睡齋ヲ創立ス開山ハ大年和尙大路ハ二世トナル

幼時侍_レ恕仲和尙貌有_レ師。至_レ寂後_レ扁_レ歷於五畿七道。或慕_レ師之舊棲。來_レ久野松下。數日廓然觀法。於_レ定中_レ如_レ夢如_レ幻。謁_レ毗沙門天。有_レ告。欲_レ開_レ法窟。從此數十步北方有_レ靈場。吾當_レ永加_レ護。法威力。任_レ告到_レ彼。有_レ奇驗之地。永正年中再創_レ之。以_レ銘_レ萬松山可睡齋。大路和尙爲_レ師孝。以_レ附法師大年。和尙。爲_レ開山。自謙處_レ于二世。然當國一雲齋者眞_レ品和尙ノ肩境也。巖思使_レ勸_レ請師牌。以_レ恕仲和尙爲_レ開_レ山。眞_レ品川僧寂跡之古名場爲_レ眞巖一派之輪番所。雖_レ本寺_レ天正年中

家康ノ命ニ依リ一雲齋ニヨリ可睡齋ニ世牌ヲ遷ス

東照大神君命_レ當山十一世等膳和尙曰。可睡齋者往昔。恕仲和尙初開山之地也。從_レ一雲齋_レ世牌遷_レ可睡。且一雲者可_レ爲_レ等膳菟裘之處。依_レ鈞命_レ不_レ得_レ已移_レ轉。恕仲眞巖川僧三牌子可睡。夫以降大洞六派之爲_レ頂顛。等膳既隱_レ棲於一雲齋之時

等膳ヲ中興開山ト爲ス

大神君賜_レ材木。諸堂悉落成。以_レ等膳_レ爲_レ中興開山。相續禪。易宋山住_レ于此。後又一和尙住_レ當山。斯時一雲爲_レ當_レ寺末。蓋等膳和尙其先尾州篠島ノ人。石橋氏末裔。住_レ篠島妙見齋。天文乙未年松平次郎三郎廣忠公_レ御父爲_レ同姓內膳信定公。大神君_レ御父竊退去於岡崎城。從_レ臣阿部。大藏其外六七輩潛_レ篠島妙見齋。兩月。且石橋之氏。族等并等膳和尙相共奉_レ送_レ于勢州

等膳築山婦人ノ靈ヲ修伏ス

神戶其后天。正年中等膳住_レ于可睡時。

大神君在_レ當國濱松之城。有_レ婦人_レ曰_レ築山。岡崎三郎信康公之母堂關口刑部少輔女。今川義元姪。住_レ三州

築山故_レ有_レ罪被_レ誅。亡魂爲_レ蛇形。蟠_レ于寢殿。命_レ諸宗_レ雖_レ追福作善。憤魂猶未_レ熄。命_レ神原式部大輔康政。請_レ等膳。卒_レ禪易宋山二弟_レ拜_レ謁

大神君曰。可_レ速降_レ伏怪鬼。師弟止_レ寢殿。一夜禪定修法。且授_レ菩薩戒血脈。死靈乍伏。等膳道德彌高。其後。賜_レ三遠駿并_レ豆州修禪寺一派之僧錄司。

渡_レ御當國。中泉亭時。每招_レ等膳和尙。或大洞院炎燒。等膳再建之。志願逮_レ于上聞。許_レ勸化三遠駿甲信五州。諸堂造畢。但山門經堂者此時御造

營云。如_レ斯等膳和尙者。大洞。中興之功深厚。故至今開山同格奠_レ之。又慶長年中於_レ中泉亭。使_レ松平右衛門大夫_レ問_レ等膳禪易宋山三和尙。安

否。宋山進云。等膳禪易兩僧已寂。大神君太被_レ腦_レ襪衿。懷慕之餘。賜_レ等膳鳳山仙麟禪師。禪易。覆天一株禪師

謚號。伴僧惠策雲達。一長老始奉_レ拜賀。賜_レ日域曹洞一宗掟於宋山和尙。且曰有_レ可_レ願之事。速_レ可_レ訴_レ之。山答云。吾金仙氏身躡_レ雲水之際。心遊_レ于

穹_レ窿之外。焉求_レ聲利。然冀爲_レ敬_レ法源_レ禮_レ師聖。請_レ頒_レ祿本山大洞之號。因

レ茲

古文書 周智郡 可睡齋文書

等膳三遠駿并_レ豆州修禪寺一派ノ僧錄司トナル大洞院ヲ再建ス山門經堂ヲ建ツ

家康宋山ニ日域曹洞宗ノ掟ヲ與フ宋山大洞院ノ號ヲ請フ

家康秀忠ノ
朱印狀ニ大
洞院ノ號アリ

延寶天和ノ
間可睡齋火
災ニ罹ル
緣起焼失ス

寛文八年法
幢ノ地トナ
ル

古文書 周智郡 可睡齋文書
大神君并

台徳院殿兩

御朱印

有大洞院號。而后或於駿府集會。始總寧龍穩大中

三寺。并關八州智識。使下宋山和尚爲師。商量一座法問。本則本來面目

或至江府。賜資重寶。數度雖藏于當山寶庫。延寶天和之間罹火

災而無有。今僅留翰墨。惜哉此時當山緣起共灰燼。雖然歷代

御朱印御條目無恙相傳奉護持。且萬治二年當山二十一世貴外和尚。

使種原式部大輔忠次康政ノ孫忠政一男并井上河内守正利主計頭正

時寺社刺述當寺緣源上達也。就一男此

嚴有院殿鈞聽。蒙由緒異他台旨。入院拜賀畢。賜御暇時服。其以來每歲

正月賜之。寛文八年廿二代。丹山和尚願常法幢。迺蒙允許。冬夏無怠。元

祿五年野僧藝訓謹

大聖君蒙拜聞講書。同十三年教松平志摩守重賢。寺社乞賜在府之宿

地。實累代恩光照禪林。權世威風轉法輪。猶千秋祝國道場。當厥恩厥

德永與此山共無盡。今野人忝之餘。欲泰彰代々

君恩留先哲法忠。以雖下或問門葉。需檀越辨諸譜祿。糺舊事。更滄海一

粟而已。惟所期後人精補傳萬世。豈元祿庚辰仲春書武陵旅刺。

○元祿十三年
紀元二二六

○朱印文上「教
寂」下「藝訓」

教寂藝訓叟欽白

(朱印)

(朱印)

可睡齋ヲ祈
願所トナシ
給フ

二七 有栖川宮職仁親王令旨

今般御祈願所被仰下候。然上者殿内安全長久之祈念可
抽丹誠者。依令旨執達如件。

武藤左衛門

胤永(花押)

慶應四年

辰閏四月

松浦左兵衛權大尉

孝顯(花押)

嶋岡大藏大丞

俊憲(花押)

前川式部少丞

茂矩(花押)

古文書 周智郡 可睡齋文書

○慶應四年
元明
紀元二五二
八

古文書 周智郡 可睡齋文書

前川太宰大監

茂行(花押)

中川紀伊守

長正(花押)

山本伊豫守

邦保(花押)

栗津駿河守

義風(花押)

藤木雅樂頭

成城(花押)

遠江國

可睡齋

二八 有栖川宮奉行人達書

幟仁親王可
睡齋護國
殿額字ヲ
賜セラレ

護國殿

御額字

御裏書

右。今般依願・中務卿幟仁親王・御染筆被成下者也。

慶應四年八月

武藤左衛門

胤永(花押)

松浦左兵衛權大尉

孝顯(花押)

嶋岡大藏大丞

俊憲(花押)

前川式部少丞

茂矩(花押)

前川太宰大監

茂行(花押)

中川紀伊守

長正(花押)

古文書 周智郡 可睡齋文書

○幟仁親王有
栖川宮幟仁親
王御父

○慶應四年
元明
紀元一五二
八